


令和4年度 事務事業評価シート (消防局)

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載						
	10104010	消防署所の適正配置に係る事業				無						
担当	組織コード	所属名										
	841000	消防局総務部企画担当										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—		その他	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 消防法、消防組織法、消防力の整備指針											
総合計画と連携する計画等												
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性		11.b	複雑多様化する災害等に対応する消防体制を構築することで、災害リスクの防止に繋がります。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	0	0	0	0	0		0			
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0		0	
		市債	0	—	0	0	0		0		0	
		その他特財	0	—	0	0	0		0		0	
		一般財源	0	—	0	0	0		0		0	
人件費 [※] B	13,900	13,900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総コスト(A+B)	13,900	13,900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
人工(単位:人)	1.65											

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	人口動態、都市構造、産業構造の変化に伴い複雑多様化する災害等に対応する消防体制を構築することで、火災等による被害を最小限に止め、市民の安全を守ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	防火対象物数の推移、消防・救急車両の現場到着時間等を踏まえ、効率的・効果的な消防署所の適正配置を行います。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①消防力の整備指針をはじめとした消防力の整備に関する情報の収集 ②社会環境の変化等に関する関係部局との情報交換 ③消防隊・救急隊等の現場到着時間の調査・分析 ④臨海部の整備等を考慮した適正配置の検討	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①の消防力の整備指針をはじめとした消防力の整備に関する情報の収集については、地域特性に応じた消防署所配置の調査・検討を進めるため、各種統計情報や各政令都市の消防力の整備状況等の情報を収集し、令和4年度の消防力の整備方針を策定しました。 ②の社会環境の変化等に関する関係部局との情報交換については、救急需要の増加に伴う消防力の整備に対する考え方の情報交換を各政令都市と実施しました。 ③の消防隊・救急隊等の現場到着時間の調査・分析については、消防隊・救急隊等の現場到着時間を調査するとともに、本市の地域特性、各消防署管内の都市構造や人口動態、高齢化の状況等を勘案し、消防力の整備状況の分析を実施しました。 ④の臨海部の整備等を考慮した適正配置の検討については、「令和4年度JFEスチール株式会社東日本製鉄所京浜地区の高炉等休止に係る庁内調整会議 ワーキンググループ」に参画し、今後の土地利用についての情報提供を求めるとともに、想定される必要な消防力の整備数等の検討をしました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	活動指標 消防力の整備方針の策定	目標	1	1	1	1	回
		実績	1	—	—	—	
2	説明	目標	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	
3	説明	目標	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	
4	説明	目標	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	


評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		国が定める「消防力の整備指針」の基準に対応する必要があります。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 4 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R4年度: 令和4年度消防力の整備方針を策定しました。消防局で定める「消防力の整備方針」について、人口増や社会情勢の変化を反映させるため、毎年度、改定を行います。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	消防署、出張所を適正に配置することにより、火災等による被害を最小限に止め、市民の安全・安心を守ることを目的としているため、市民のニーズは薄れていません。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	救急車の現場到着時間は、延伸傾向(R3:9.5分→10.2分)であるものの、効率的効果的な消防力の整備等についての課題を確認できましたので、事業の成果は徐々に上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	本事業については、消防業務に精通した職員が各種データを用いて調査・検討を行う必要があり、今後も適切に事業を推進していきます。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	本市に必要な消防力の整備方針を策定し、地域の実情に合った消防力を維持し、災害による被害を最小限に止めていることから、施策への貢献度はありました。



改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	救急車の現場到着時間が延伸傾向にあるため、今後も地域特性や都市構造等に応じた調査・検討を実施しながら、消防力の整備について、検討していきます。
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①消防力の整備指針をはじめとした消防力の整備に関する情報の収集 ②社会環境の変化等に関する関係部局との情報交換 ③消防隊・救急隊等の現着時間の調査・分析 ④臨海部の整備等を考慮した適正配置の検討	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載						
	10104020	消防署所改築事業				有						
担当	組織コード	所属名										
	841500	消防局総務部施設装備課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—		その他	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 消防法、建築基準法、建築基準法施行令、川崎市庁舎管理規則、川崎市庁舎管理要綱											
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	 13.1	消防力の基盤となる防災拠点の整備を計画的かつ効率的に行い、迅速な出場や確実な消防活動及び良好な執務環境を確保し、消防力の強化を図ります。										
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	事業費 A	141,540	96,788	368,465	226,411	98,068			368,465			
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	0			0		
		市債	108,000	—	354,000	226,000	75,000			354,000		
		その他特財	0	—	0	0	0			0		
		一般財源	33,540	—	14,465	411	23,068			14,465		
	人件費 [※] B	4,633	4,633	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	146,173	101,421	368,465	226,411	98,068	0	0	368,465	0	0	
	人工(単位:人)	0.55										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	消防庁舎等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	老朽化した庁舎・施設の改築を行うことで、迅速な出場や確実な活動を確保し、消防力の強化を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	安定した防災拠点の確保に向け、老朽・狭小な消防出張所等については、計画的な改築を行います。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①(仮称)消防施設整備方針の策定 ②宮崎出張所改築工事に伴う設計	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標を下回りました。 ①の(仮称)消防施設整備方針の策定については、建物劣化診断等による耐用年数評価と消防施設に求められる機能等について整理を行い、改修・改築の考え方の取りまとめは行いましたが、令和4年夏以降の新型コロナウイルス感染症等に伴う救急需要の大幅な増加を踏まえた検討を行う必要性が生じたことから、令和4年度中に策定することができませんでした。今後、救急体制に関する適正配置に関して、関係所管課と連携し、検証結果等を取りまとめるとともに、それらを踏まえて策定作業を進め、令和5年度末までに策定します。 ②宮崎出張所改築工事に伴う設計については、基本・実施設計を完了しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	活動指標 説明 老朽化した消防署所等の改築工事を実施した箇所数	目標	0	1	0	0	箇所
		実績	0	—	—	—	
2	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
3	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
4	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	従前までは35～40年で建替えによる更新をしていましたが、平成26年3月にかわさき資産マネジメントカルテが策定され、一定規模の庁舎等建築物においては、長寿命化工事等により目標耐用年数を60年以上とされました。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 1 年度 <input type="checkbox"/> 未実施		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R1年度:令和2年度から、建築年数が経過している庁舎に対し順次建物診断を実施し、その結果を踏まえた上で、計画的に整備を進めていくこととしました。 H28年度:消防庁舎等の改築については、旧耐震基準で建築されたものを優先的に対象として実施する計画としていますが、消防局の総事業費の平準化を踏まえ、平成30年度まで実施しないこととしました。		
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	消防活動を行うための防災拠点であることから、かわさき資産マネジメントカルテや第3期実施計画、費用対効果を踏まえた適切な庁舎整備により、市民サービスの低下を防ぐ必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	救急需要を踏まえ、検討を行う必要が生じたことから、(仮称)消防施設整備方針の策定には至らなかったものの、宮崎出張所改築工事に伴う設計については、基本・実施設計を完了しました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	民間活用における改築コスト削減の余地はあるものの、大規模な緊急車両駐車スペースの確保や日常的な訓練の実施、昼夜間問わず、サイレンの吹鳴があるなど、職種の特殊性が高いため、用途が限定的となる可能性があります。整備手法については、専門的知識が必要であることから、業務執行課において、契約や仕様書の作成等は行わず、担当部局において実施することから、見直しの可能性はないと考えております。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	(仮称)消防施設整備方針の策定には至らなかったものの、建物劣化診断等による耐用年数評価と消防施設に求められる機能等について整理を行い、今後の改修・建替に向けた方向性を取りまとめたほか、消防出張所改築に伴う基本・実施設計を完了させていることから、施策への貢献はありました。

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	救急需要の大幅な増加を踏まえた施設整備の検討を行い、(仮称)消防施設整備方針を策定していきま す。 消防施設等の改修・改築について、市民サービスの低下を防ぐため、計画的に実施する必要があること から、市の財政状況を踏まえつつ、建物劣化診断等を実施しながら、関係部局との調整により適正な整備 を推進していきます。
第3期実施計画に記載されている 次年度の取組内容		①(仮称)消防施設整備方針に基づく整備の推進 ②個別施設整備の方向性の検討 ③宮崎出張所改築工事完了	
今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の取組内容 の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に 対する変更箇所)	①(仮称)消防施設整備方針の策定【変更(令和4年度完了目標としていた取組)】 ②実施なし【令和6年度に延期】 ③宮崎出張所改築工事【変更(令和6年度工事完了)】	
	変更の理由	①②令和4年夏以降の救急需要の大幅な増加により、これを踏まえた施設整備の検討を行った上で(仮 称)消防施設整備方針を策定する必要が生じたため。 ③建築業における労働環境の確保等のため、工期を見直しました。	

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載								
	10104030	消防指令体制整備事業			有								
担当	組織コード	所属名											
	843700	消防局警防部指令課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	—	—		その他	—								
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 消防組織法、川崎市消防局警防規程、川崎市消防通信規程、川崎市消防通信規程運用要綱												
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画、国際施策推進プラン、デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進プラン												
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	13	13.1	消防活動に関連する消防指令システム全体を強化及び適切に維持管理し、気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化するとともに、迅速・的確な通信指令体制の維持を図ります。										
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名										
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度					
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A		1,334,309	1,323,309	604,377	597,454	739,259		553,756			
		国庫支出金	0	-	0	0	0		0		0		
			市債	770,000	-	15,000	44,000	0		0		0	
			その他特財	0	-	0	0	0		0		0	
			一般財源	564,309	-	589,377	553,454	739,259		553,756			
	人件費* B		248,508	248,508	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)		1,582,817	1,571,817	604,377	597,454	0	739,259	0	0	553,756	0	0
	人工(単位:人)		29.5										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、消防指令システム	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	消防活動に関連する消防指令システム全体を強化及び適切に維持管理することで、迅速・的確な通信指令体制の維持を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	消防指令システム及び消防情報管理システムを強化及び適切に維持管理することで、迅速・的確な緊急通報の受信体制を維持し、併せて音声による119番通報に不安のある方や日本語を母国語としない方からの通報に対しても迅速・的確に対応します。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①消防指令システムの運用、維持管理及び更新整備 ②デジタル無線設備の運用及び維持管理 ③消防情報管理システムの運用、維持管理及び更新整備 ④消防情報管理システム等に係る情報環境の効率化の調査・研究及び順次導入 ⑤Net119緊急通報システムの運用及び登録者拡大に向けた説明会等の実施 ⑥多言語通訳業務の適切な運用	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①の消防指令システムについては、運用、維持管理を適切に行い、令和3年度より2か年で実施する計画として取り組んできた更新整備について完了しました。 ②のデジタル無線設備については、運用、維持管理を適切に行いました。 ③の消防情報管理システムについては、運用、維持管理を適切に行い、更新整備を完了しました。 ④の消防情報管理システム等に係る情報環境の効率化を図るための調査・研究を実施、及び改修対象のうち優先度等を検討の上、今年度実施が必要な内容についてシステムを改修しました。 ⑤のNet119緊急通報システムの運用及び登録者拡大に向けた説明会等の実施について、システムを適切に運用し、説明会等を行った結果、前年度に比べ登録者が増加しました。 ⑥の多言語通訳業務について、適切に運用しました。							
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位	
1	活動指標	多言語通訳業務の取扱い件数	目標	-	-	-	-	件
	説明	外国人からの119番受信による3者通訳を実施した件数 (実績管理のための参考指標のため、目標値は設定していません。)	実績	78	-	-	-	
2	活動指標	Net119緊急通報システムの登録者数	目標	-	-	-	-	人
	説明	聴覚や言語に障害があり、音声による119番通報が困難な市民が、携帯電話・スマートフォンを利用して緊急通報を行うシステムの登録者数(累計) (実績管理のための参考指標のため、目標値は設定していません。)	実績	204	-	-	-	
3	活動指標	Net119緊急通報システムの説明会等の実施	目標	1	1	1	1	回
	説明	聴覚や言語に障害があり、音声による119番通報が困難な市民に対し、携帯電話・スマートフォンを利用して緊急通報を行うシステムの説明会等を実施した回数	実績	5	-	-	-	
4	説明	目標	-	-	-	-		
		実績	-	-	-	-		

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	高齢化の進行、外国人市民の増加などの社会環境の変化を踏まえ、全ての市民からの緊急通報に迅速・的確に対応するために通信指令体制を適正に維持することが求められます。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 4 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R4年度:消防指令システムの更新整備について、既存機器の有効活用、委託内容の精査を行うことで、事業費を削減しました。 R1年度:消防救急無線固定局(多重無線)の再整備について、既設設備からのIP対応及び電波法の規定改正を見据えた更新を進めるとともに通信速度を倍加させることで、大幅な機能の向上、改善を実施しました。 H27年度:消防指令システムの更新整備について、既存機器の有効活用、パッケージシステムの導入など事業費を削減するとともに起債を活用し財源構成の見直しを実施しました。


評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	令和2年の救急件数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和元年に比べ減少しましたが、令和3年からは増加しており令和4年は過去最高の件数になりました。高齢化の進行等を踏まえると、今後も救急件数は増加する可能性が高いことから、継続して通信指令体制を維持する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	Net119緊急通報システムの登録者数が増加していることから成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	・消防指令システムは、パッケージシステムを平成27年度から導入しており、令和4年度の更新整備においては、既存機器の有効活用、委託内容の精査などを行い事業費を削減しています。 ・最小限の経費で市民からの119番通報等を適正に対応しているため、削減の余地はありません。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	24時間、365日、緊急通報に対する受信体制を適正に維持及び運用し、年間10万件以上ある緊急通報に迅速・的確な対応をしていることから施策へ貢献しています。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①消防指令システムの運用、維持管理 ②デジタル無線設備の運用、維持管理 ③消防情報管理システムの運用、維持管理 ④消防情報管理システム等に係る情報環境の効率化の調査・研究及び順次導入 ⑤Net119緊急通報システムの運用及び登録者拡大に向けた説明会等の実施 ⑥多言語通訳業務の適切な運用
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)	
	変更の理由	

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載							
	10104040	消防艇管理事業			無							
担当	組織コード	所属名										
	841500	消防局総務部施設整備課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—	その他	—	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 船舶安全法、船舶安全施行規則、消防法、消防力の整備指針、川崎市消防局消防艇運航管理規程											
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性		13.1	石油コンビナート火災、船舶火災、水難事故等、川崎市臨海部における各種災害に対応できる体制を整えることで、災害に対する強靱性等を強化します。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		36,004	34,071	32,000	28,923	28,665		46,255		
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0		0	
			市債	0	—	0	0	0		0		0
			その他特財	0	—	0	0	0		0		0
			一般財源	36,004	—	32,000	28,923	28,665		46,255		
人件費* B		3,370	3,370	0	0	0	0	0	0	0	0	
総コスト(A+B)		39,374	37,441	32,000	28,923	0	28,665	0	0	46,255	0	0
人工(単位:人)		0.4										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	消防艇	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	石油コンビナート火災、船舶火災、水難事故等、川崎市臨海部における各種災害に対応できる体制を確保することで、市民の生命・身体・財産を守ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	消防艇の法定検査、点検整備、修繕等を行い適正に維持管理します。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①消防艇(2艇体制)の運用・維持管理	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①の消防艇の維持管理については、消防艇かわさき及び消防艇うみかぜの上架整備を実施しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	活動指標 説明 消防艇(大型艇、小型艇)の法定検査、点検整備の実施艇数	目標	2	2	2	2	艇
		実績	2	—	—	—	
2	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
3	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
4	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	平成22年に川崎港は国際コンテナ戦略港湾に選定され、入港船舶1隻あたりの大きさを表す総トン数は、平成22年は約3,717トンであったのに対して平成26年には4,130トンとなっており、入港船舶が1隻あたり平均して約11パーセント大型化していることから、臨海部の防災体制の向上を図るため、大型消防艇と小型消防艇の2艇体制を維持する必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	日本有数の石油コンビナート等特別防災地域を抱える川崎市において、コンビナート火災や船舶火災に備え、消防艇を活用した災害対応力の強化が必要とされています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	川崎臨海部の地域特性を考慮した消防艇の運用及び維持管理ができていることから、事業成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	消防艇の適正な維持・管理という事業は特殊性があり、民間委託等はそぐわないものの、日常のメンテナンスを的確に実施し、ランニングコスト圧縮による経費削減の可能性はあると考えています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	災害対応力向上のために配備された、川崎臨海部の地域特性に合わせた機能を有する消防艇2艇について整備を行い、適切な運用・維持管理ができたことから、一定程度の施策への貢献はありました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①消防艇(2艇体制)の運用・維持管理
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)	
	変更の理由	

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載							
	10104050	ヘリコプター整備事業			無							
担当	組織コード	所属名										
	843800	消防局警防部航空隊										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—		その他	—							
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)											
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性		13.1	全国の消防防災ヘリコプターの更新状況や機体性能等を調査し、今後増加が予想される本市の気候関連災害や自然災害に適応した機体の選定基準を検討することで、消防ヘリコプターを計画的に更新し災害対応能力の向上を図ります。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名									
予決算 (単位: 千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	0	0	0	0	0			0		
		国庫支出金	0	-	0	0	0			0		
		市債	0	-	0	0	0			0		
		その他特財	0	-	0	0	0			0		
		一般財源	0	-	0	0	0			0		
	人件費 [*] B	14,742	14,742	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総コスト(A+B)	14,742	14,742	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人工(単位:人)	1.75										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	全国の消防防災ヘリコプターの更新状況や機体性能等を調査し、機体の選定基準を検討することで、消防ヘリコプターを計画的に更新し災害対応能力の向上を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	平成17年に配置された消防ヘリコプター(1号機)の更新に向けた検討を行います。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①消防ヘリコプターの更新に向けた調査及び検討	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①の消防ヘリコプターの更新に向けた調査及び検討については、局内において「ヘリコプター更新に関する検討プロジェクト」を設置し、今後の高額支出に対する予算の平準化、機体生産終了に伴う部品納入の困難化の影響による稼働率状況調査、半導体不足等の影響による各航空機メーカーの納入状況の調査等、機体更新の際に考慮すべき事項や考え方についての検討を計5回実施しました。 また、令和5年度に機体の更新を予定している消防・防災機関の動向及び本市と同一機種を運航する消防・防災機関の運航状況を注視し、引き続き調査・検討に取り組みます。							
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位	
1	活動指標	消防ヘリコプターの実態調査検討会	目標	2	2	2	2	回
		説明	実績	5	—	—	—	
2			目標					
		説明	実績	—	—	—	—	
3			目標					
		説明	実績	—	—	—	—	
4			目標					
		説明	実績	—	—	—	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	相次ぐ消防防災ヘリコプターの墜落事故を受け、令和元年9月24日付け消防庁告示第4号により、消防防災ヘリコプターの運航に関する基準が制定され、二人操縦士体制や運航安全管理者の配置など消防防災ヘリコプターの更なる安全性向上に向けた取組事項が示されています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 24 年度 <input type="checkbox"/> 未実施		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H24年度：2号機の更新にあたり平成24年8月に「ヘリコプター更新検討委員会」を設置し、本市の地域特性や消防航空隊の任務を遂行する上で必要な能力及び他の消防防災航空隊の事故等を踏まえ、1年間にわたり検討を行いました。また、現有機より運航能力が高い機体を導入する必要があるとの方向性を定め、機種選定を行った結果、平成27年8月に更新し、より安全性と活動能力を備えた機体による消防活動が可能になり、市民サービスの向上が図られました。		
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	大規模災害に対する消防ヘリコプターの役割は大きく、市民ニーズも高いことから、消防ヘリコプターの適正配備(更新)に向けた事業は必須です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	消防ヘリコプターの更新に向けた調査・検討は、計画的な更新に向け有効であり、今後の方向性を定める上で成果が上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	市域において消防ヘリコプターを使用した災害対応力を維持するためには、市域の特性や消防航空活動に必要な能力及び運航体制を把握していることが必須であるため、民間活用の余地はありません。しかし、事業を適正な規模等で推進する上で、国や隣接航空隊等の動静の調査及び必須能力などの検討が必要であり、総合的に調査・検討を継続します。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	消防ヘリコプターの更新は、直接的に災害対応力の向上につながる事業であり、消防ヘリコプターの更新に向けた調査を行い、複数の更新計画を検討することができたことから、一定程度の施策への貢献はありました。

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	I	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了		全国の消防防災ヘリコプターの配置状況をもとに、令和5年度に更新を予定している消防・防災機関の動向を見極めながら、継続して調査・検討に取り組みとともに、本市の消防航空隊に必要な能力等についても併せて検討していきます。
第3期実施計画に記載されている 次年度の取組内容		①消防ヘリコプターの更新に向けた調査及び検討	
今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の取組内容 の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に 対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載							
	10104060	消防団関係事業			有							
担当	組織コード	所属名										
	841100	消防局総務部庶務課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—		その他	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 消防組織法、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律											
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	13	13.1	消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図るとともに、発生が危惧される風水害や首都直下地震などの大規模災害への備えを強化していきます。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名								
	取組3(3)地域防災力の向上に向けた連携			9・消防団を中核とした地域防災力の充実・強化								
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	232,706	211,503	232,681	234,559	235,152		234,579			
		国庫支出金	0	—	0	1,874	0		0			
		市債	0	—	0	0	0		0			
		その他特財	34,766	—	34,766	35,805	34,766		34,766			
		一般財源	197,940	—	197,915	196,880	200,386		199,813			
人件費* B	56,441	56,441	0	0	0	0	0	0	0	0		
総コスト(A+B)	289,147	267,944	232,681	234,559	0	235,152	0	0	234,579	0	0	
人工(単位:人)	6.7											

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	消防団	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	消防団員を確保し地域防災力の向上を図ることで、火災・風水害等における災害から市民の生命・身体・財産を守ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	消防団員の確保及び必要な資器材や個人装備品の整備など消防団活動の充実・強化を図るとともに、処遇改善や各種訓練を実施することで、災害対応力の向上を図ります。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①消防団員アンケートの検証・分析結果に基づく団員確保対策の推進 ②各種イベント等を活用した若年層への広報活動の充実 ③消防団応援事業所制度及び学生消防団員活動認証制度の周知 ④処遇改善に向けた取組 ⑤消防隊と連携した各種訓練等の実施及び必要な資器材や個人装備品の配備	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標を下回りました。 ①②入団60人【男性46人・女性14人】(基本団員42人:うち学生団員9人、機能別団員18人:うち学生団員1人) 退団74人【男性57人・女性17人】(基本団員63人:うち学生団員7人、機能別団員11人:うち学生団員0人) ・入団主要因:地域貢献29.6%、団員、会社、知人及び町内会等からの紹介 44.5% ・退団主要因:仕事との両立が困難 20.4%、健康上の理由 22.2%、住居の移転 11.1% アゼリアビジョンでの消防団員募集動画の放映、新聞休刊折り込みチラシ及び市政だよりへの消防団員募集記事の掲載、内閣府政府広報番組(消防団員募集)及び総務省消防庁消防団入団促進キャンペーンへの本市消防団員の協力、明治大学学園祭における消防団員募集広報及びアンケート調査の実施、オリンピックメダリストを登用した消防団員募集ポスターの作成、「二十歳を祝うつどい」パンフレットへの消防団員募集記事の掲載、機能別団員募集説明の開催等、若年層を中心とした幅広い世代への広報活動を展開し消防団活動のイメージアップを図りました。また、児童生徒等に対する防災教育として、少年消防クラブ、みんなが消防士、地域防災スクールにおいて消防団が参画し体験的・実践的な防災教育を実施しました。 ③消防団応援事業所登録事業所数の拡大に向け市内の事業所等に制度の周知を図り4事業所が新たに登録され106事業所となりました。 ④令和4年度から既存のOAシステムを改修し、消防団員個人へ報酬等の直接支給を開始しました。 ⑤消防隊と連携した訓練を73回、可搬ポンプ取扱研修を企業から講師を招き4回実施するとともにMCA無線線を36基更新及びISO基準の上下式防火衣を新たに導入しました。 ※成果指標の充足率の目標が達成できなかった要因としては、新型コロナウイルス感染症による消防団活動への影響が一定程度あったほか、家庭の事情を理由とする退団者の増加など様々な要因が背景にあるものと推察します。なお、多角的な消防団員募集活動や消防団員に対する各種制度(機能別・休団)等、様々な取組を行うも充足率の上昇には至っておりませんが局・署・団が連携し地道な広報活動を展開しております。 ※学生から60歳以上の方など、幅広い世代の方や女性が入団している状況で、身近な人からの紹介による入団者が多い傾向にあります。今後も若年層を中心とした幅広い世代に対して広報活動を継続して展開するとともに、消防団員や町会内等による身近な存在からの勧誘活動も併せて実施できるよう消防団員から意見を聴取しながら消防団員確保に向けた取組を推進します。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標（指標の説明）	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	消防団員数の充足率 説明 条例定員(1,345人)に対する現団員数の割合(取組年度の翌年度の4月1日時点の消防団員数を基準) 令和2年度 1,092人(令和3年4月1日現在)(81.2%) 令和3年度 1,067人(令和4年4月1日現在)(79.3%)	目標	84.2	87.2	90.2	93	%
		実績	78.7	—	—	—	
2	消防団協力事業所数 説明 従業員の入団、福利厚生、訓練場所等の提供など、消防団に積極的に協力する事業所数(累計)	目標	164以上	164以上	164以上	164以上	箇所
		実績	165	—	—	—	
3	消防団応援事業所数 説明 消防団員に福利厚生面を提供し、積極的に応援している事業所数(累計)	目標	104以上	106以上	108以上	110以上	箇所
		実績	106	—	—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	平成元年には全国で100万人いた消防団員が、「消防団の組織概要等に関する調査(令和4年度)の結果」によると令和4年4月1日現在、初めて80万人を下回る危機的状況にあります。この状況を踏まえ、平成25年12月に公布施行された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」及び令和4年12月23日に発出された「消防庁長官通知(地域防災力の中核となる消防団の充実強化に向けた取組事項について)」に基づき、消防団員の処遇改善や装備品等の充実強化を図る必要があります。
事業の見直し・改善内容 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 4 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 R4年度: 年額報酬を階級に応じた額に改定、出勤報酬の新設及び報酬等の直接支給を開始 R2年度: 消防団員の年額報酬を22,000円から36,500円に増額 活動範囲を限定した機能別団員の制度を導入 H27年度: 消防団員の年額報酬を21,000円から22,000円に増額 H26年度: 2時間を超える災害出場及び4時間を超える市主催の訓練参加には3,500円の見直し

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
評価の理由	「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」及び「消防庁長官通知(地域防災力の中核となる消防団の充実強化に向けた取組事項について)」に基づき消防団の充実強化を図るため事業・取組等を強力に推進していく必要があります。		
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	成果指標である「消防団員数の充足率」は、令和4年度は、78.7%となり昨年度(令和3年度79.3%)と比較して減少しましたが、60人の入団者がおり消防団活動への理解と地域における勧誘活動による一定の効果が出ていると考えています。また、「消防団協力事業所数」「消防団応援事業所数」については、目標を達成しており成果は徐々に上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
評価の理由	消防団員の確保対策として、入団促進と退団抑制の取組を推進し、処遇の改善により消防団の士気向上を図るとともに、装備品や資器材の充実により災害対応能力の向上を図る必要があることから民間の活用等は困難であり、現状を維持しながら事業を推進します。		

施策への貢献度	貢献度区分 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 B 成果指標である消防団員の充足率の改善には至っていませんが、入団促進の各種取組により60名の入団があったほか、消防団協力事業所や消防団応援事業所については目標を達成していることから、施策への一定程度の貢献はありました。
----------------	--	---

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分 I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II 消防団員確保のため、若年層を中心とした幅広い世代に対して各種広報活動を積極的に実施するとともに、消防団員の確保対策や処遇改善等を検討するなど事業を推進していきます。
	第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容	①消防団員アンケートの検証・分析結果に基づく団員確保対策の推進 ②各種イベント等を活用した若年層への広報活動の充実 ③消防団応援事業所制度及び学生消防団員活動認証制度の周知 ④処遇改善に向けた取組 ⑤消防隊と連携した各種訓練等の実施及び必要な資器材や個人装備品の配備
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)	
	変更の理由	

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載							
	10104070	警防活動事業			有							
担当	組織コード	所属名										
	843100	消防局警防部警防課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—	その他	—	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)											
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性		11.b	災害に対する強靱性を目指す総合的施策として、消防職員の災害対応能力を強化することで、さまざまな災害から市民を守ります。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名									
予決算 (単位: 千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		242,278	240,331	242,278	312,511	242,278		242,278		
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0		0	
			市債	0	—	0	0	0		0		0
			その他特財	0	—	0	0	0		0		0
			一般財源	242,278	—	242,278	312,511	242,278		242,278		
	人件費* B		3,745,479	3,745,479	0	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)		3,987,757	3,985,810	242,278	312,511	0	242,278	0	242,278	0	0
	人工(単位: 人)		444.62									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、消防職員	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	各種訓練等を実施し、災害対応能力を向上させることで、近年複雑多様化している災害から市民を守り、安全で安心なまちづくりを目指します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	消防隊員の指揮能力及び消火活動能力等を高めるため、指導者となる職員を育成するとともに、効果的な教育訓練及び研修を行います。また、震災時等の火災対策に向けた取組として、自主防災用資器材の保守点検を推進するとともに、消耗品を計画的に更新することで、地域防災力の向上を図ります。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①各種教育訓練や研修による総合的な災害対応力の向上(訓練・研修数:年36回以上) ②自主防災用資器材の活用(保守点検の推進)	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①について、警防技術確認訓練をはじめ、訓練36回・研修6回、計42回実施しました。 ②について、令和3年度に制定した消火ホースキット管理要綱に基づき保守点検を実施しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	活動指標 説明 総合的な災害対応力の向上に向けた訓練及び研修の実施回数	目標	36以上	36以上	36以上	36以上	回
		実績	42	—	—	—	
2	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
3	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
4	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		近年、災害の態様が複雑多様化している状況を踏まえ、大規模地震、都市災害及び自然災害等のあらゆる災害に迅速・的確に対応するため、各部隊及び災害種別に対応した基礎的・応用的な訓練・研修を継続して実施する必要があります。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		H28年度：消火ホースキットに関する市民アンケートの結果を踏まえ、危機管理室と協議した結果、平成29年度以降については、自主防災組織等への普及推進は危機管理室や各区役所が担当し、消防局は、避難所に配備された消火ホースキットを活用し、訓練指導を担当することで、役割分担を行いました。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
評価の理由		災害の態様が複雑多様化している状況を踏まえ、大規模地震、都市災害及び自然災害等のあらゆる災害に迅速・的確に対応するため、各部隊及び災害種別に対応した基礎的・応用的な訓練・研修を継続して実施する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	基礎的、応用的な訓練・研修を継続して実施したことで、災害に迅速・的確に対応するための活動能力が向上していることから、成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
評価の理由		災害の態様が複雑多様化している状況を踏まえ、現在実施している各部隊及び災害種別に対応した基礎的、応用的な訓練・研修を継続して実施することで効果が上がると考えます。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	事業目標のとおり、近年複雑多様化している災害から市民を守るため、基礎的・応用的な訓練・研修を継続して実施し、あらゆる災害に迅速・的確に対応する活動能力が向上することができたことから施策への貢献はありました。

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	今後も消防隊員の指揮能力及び消火活動能力等を高めるため、指導者となる職員を育成するとともに、効果的な教育訓練及び研修を継続していきます。また、自主防災用資器材の保守点検を推進するとともに、消耗品を計画的に更新することで、地域防災力の維持を図ります。
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①各種教育訓練や研修による総合的な災害対応力の向上(訓練・研修数:年36回以上) ②自主防災用資器材の活用(保守点検の推進)	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載								
	10104080	耐震性貯水槽建設事業			無								
担当	組織コード	所属名											
	843100	消防局警防部警防課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	平成元年	—		その他	—								
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 消防法、消防水利の基準												
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画												
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	 13.1	耐震性貯水槽の整備及び老朽化した既存貯水槽の補修・改修に取り組み、大規模地震等消火栓使用不能時の有効水利を確保することで、火災などによる死者や被災者数を低減させます。											
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名										
予決算 (単位: 千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度					
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A		5,583	55,319	5,583	5,677	5,232		5,232			
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0		0		
			市債	0	—	0	0	0		0		0	
			その他特財	0	—	0	0	0		0		0	
			一般財源	5,583	—	5,583	5,677	5,232		5,232			
	人件費 [※] B		842	842	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)		6,425	56,161	5,583	5,677	0	5,232	0	0	5,232	0	0
	人工(単位:人)		0.1										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	耐震性貯水槽	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	耐震性貯水槽等を計画的に整備、補修することにより、大規模災害時等の消火栓使用不能時の有効水利を確保します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	署員点検により、減水等認められる既存貯水槽の改修等に向け、関係課と調整を行うほか、公園等の公有地を中心に設置場所の確保に向けた調査を行い、関係局との連絡調整を密にし、未充足区画の解消に向けた整備を図ります。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①老朽化した既存貯水槽の補修・改修及び未充足区画における整備用地の調査	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等により具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①公設の全ての貯水槽の減水調査を行い、減水が認められた貯水槽3基の躯体検査を実施しました。また、地形、設置後の維持管理等の問題により設置には至りませんでした。未充足区画における整備用地確保のため、低未利用地の活用について、関係課と協議を行いました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1 活動指標	震災時基準区画による水利充足率	目標	95以上	95以上	95以上	95以上	%
	説明 震災時等消火栓使用不能時の水利充足率	実績	96	—	—	—	
2		目標					
	説明	実績	—	—	—	—	
3		目標					
	説明	実績	—	—	—	—	
4		目標					
	説明	実績	—	—	—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	大規模地震の発生が危惧され、耐震性貯水槽の必要性は年々高まっていますが、設置可能な公有地が少なく、必要数の確保に苦慮しています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載 できる場合は記載	H28年度:これまで地質調査、設計委託及び設置工事を単年度で実施していましたが、不測の事態等による繰越事業が発生していることから、平成30年度以降は地形に合った製品の選定及び適正な工期を確保するため、2箇年計画で実施することとし、事業手法の見直しを図りました。


評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	大規模災害による消火栓使用不能時の災害対応力の向上を図るため、有効水利を確保できるよう、耐震性貯水槽を計画的に整備する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	耐震性貯水槽を計画的に整備・補修し、充足率を維持することにより、大規模災害時等の消火栓使用不能における有効水利の確保ができていることから、成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	大規模地震発生時の耐震性貯水槽の使用及び消火栓等を含めた消防水利全体の維持管理体制を考慮すると、現在の体制で事業を継続する必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	耐震性貯水槽を計画的に検査・点検を行い、充足率を維持し、大規模災害時における有効水利を確保することができたことから、一定程度の施策への貢献はありました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 大規模災害による消火栓使用不能時の災害対応力の向上を図るため、有効消防水利を確保できるよう計画的に老朽化貯水槽の点検・補修等を行い、水利充足率を維持するとともに、耐震性貯水槽整備用地確保のため、関係課と継続的に協議を行い、貯水槽の整備を推進していきます。
第3期実施計画に記載されている 次年度の取組内容		①老朽化した既存貯水槽の補修・改修及び未充足区画における整備用地の調査
今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の取組内容 の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に 対する変更箇所)	
	変更の理由	

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載							
	10104090	火災予防事業			有							
担当	組織コード	所属名										
	843910	消防局予防部予防課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—		その他	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 消防法、総務省消防庁に関する通知等											
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性		11.b	放火火災防止対策の推進、住宅用火災警報器の設置促進等をすることで、災害に対する強靱さ(レジリエンス)を向上させ火災による被害の軽減を図ります。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		2,129	1,690	2,129	2,570	2,129		2,129		
		国庫支出金	0	-	0	0	0		0		0	
			市債	0	-	0	0	0		0		0
			その他特財	31	-	31	326	31		31		
			一般財源	2,098	-	2,098	2,244	2,098		2,098		
	人件費* B		173,029	173,029	0	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)		175,158	174,719	2,129	2,570	0	2,129	0	0	0	
	人工(単位:人)		20.54									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	放火火災防止対策の推進、住宅用火災警報器の設置促進等をすることで、火災による被害の軽減を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	防火指導員制度、各種掲示板・広報コーナー、消防フェア等を活用した放火火災防止対策及び住宅用火災警報器の設置促進、適正な維持管理に向けた効果的な広報を実施します。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①放火火災防止対策を中心とする広報活動 ②住宅用火災警報器の設置促進及び適正な維持管理・交換促進に向けた取組 ・各種広報媒体等を活用した放火火災防止対策及び住宅用火災警報器の設置促進等の広報の実施 ・市内の住宅用火災警報器の設置率調査及び調査結果を活用した広報の実施	

実施結果 (Do)


上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①については、放火火災は毎年上位となっている火災原因の1つであることから、防火指導員制度を活用し、町内会や自治会を中心に放火火災防止対策の指導を実施するとともに、予防運動等のあらゆる機会を捉えてホームページやチラシ等各種広報媒体を活用した放火火災防止対策を中心とする広報活動を実施しました。 ②については、条例適合率(必要箇所全てに設置)が目標に対し0.8%下回りましたが、設置率(1個でも設置)は、約95%と高く、ほぼ目標を達成したものと考えますが、改めて必要箇所全てに設置するよう広報をしていきます。令和4年度は年2回実施する火災予防運動のほか、1年を通じて各種広報媒体を活用した火災予防広報を計60回(動画サイトによる広報4回、ホームページによる広報9回、ラジオによる広報2回、SNSによる広報10回、「川崎市地域包括ケアシステムポータルサイト」による広報4回、デジタルサイネージによる広報21回、展示による広報6回、大型ビジョンによる広報3回、教育機関と連携した広報1回)実施しました。また、教育機関と連携し、住宅用火災警報器の広報を含めたアンケート調査を24の小学校に対し実施しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1 活動指標	各種広報媒体を活用した広報活動の実施回数	目標	45	45	45	45	回
	説明 各種広報媒体を活用し、放火防止対策等の火災予防広報を実施した回数	実績	60	—	—	—	
2 成果指標	市内の住宅用火災警報器の条例適合率	目標	87	87.1	87.2	87.3	%
	説明 職員による戸別訪問や、小学校を通して各家庭にアンケートを実施すること等、住宅用火災警報器の設置・維持管理状況等を確認し、川崎市火災予防条例の規定どおり設置されている割合	実績	86.2	—	—	—	
3	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
4	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	火災による死傷者は毎年発生していることから、継続的な火災予防広報と、住宅用火災警報器の設置促進等の取組が求められています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 2 年度 <input type="checkbox"/> 未実施		
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R2年度:教育機関と連携した新たな住宅用火災警報器の設置等促進の取組を開始しました。		
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	法令に基づく住宅用火災警報器の設置及び維持管理の推進や、出火原因の上位である放火による火災を減少させるためには、継続的な広報活動が必要不可欠であり、また、地域防災力の向上のためには、教育機関等と連携した防火防災教育を行っていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	住宅用火災警報器の条例適合率は、86.2%となっており、目標に対し0.8%下回りましたが、設置率は95%超であることから、市民の設置に対する意識は高く、また、出火率は平成25年から平成29年までの平均2.43件に対し、平成30年から令和4年までの平均は2.20件となっており、一定の成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	住宅用火災警報器の広報を含めたアンケート調査を教育機関と連携し実施しており、コスト削減の余地はないと考えられますが、今後、住宅用火災警報器の設置促進等の向上を図ることができる余地があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	令和4年中の火災件数は345件で、前年に比べ18件減少しております。また、住宅用火災警報器の条例適合率86.2%は、全国平均の67.4%と比較して18.8%高くなっており、ほぼ目標を達成することができていることから、施策への貢献はありました。

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	令和4年中の火災件数は345件で、前年に比べ18件減少しておりますが、建物火災については、242件で、前年に比べ16件の増加となっていることから、放火火災防止対策を中心とする広報活動や各種広報媒体を活用した広報活動について、引き続き、予防運動等のあらゆる機会を捉えて実施します。また、教育機関と連携して実施した住宅用火災警報器の広報を含めたアンケート調査の結果を踏まえ、令和5年度も効果的に広報活動を実施できるよう取り組んでいきます。
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①放火火災防止対策を中心とする広報活動 ②住宅用火災警報器の設置促進及び適正な維持管理・交換促進に向けた取組 ・各種広報媒体等を活用した放火火災防止対策及び住宅用火災警報器の設置促進等の広報の実施 ・市内の住宅用火災警報器の設置率調査及び調査結果を活用した広報の実施	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載							
	10104100	消防広報事業			無							
担当	組織コード	所属名										
	841100	消防局総務部庶務課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—		その他	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 総務省消防庁に関する通知等											
総合計画と連携する計画等												
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性		11	火災予防や地域防災に対する意識を高めるとともに次世代の担い手を育成し、消防力の総合的な強化を図ることで、誰もが安心して住み続けられるまちを作ります。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		3,340	3,009	3,340	3,868	3,220			3,240	
		国庫支出金	0	—	0	0	0			0		
			市債	0	—	0	0	0			0	
			その他特財	600	—	600	600	600			600	
			一般財源	2,740	—	2,740	3,268	2,620			2,640	
	人件費* B		34,875	34,875	0	0	0	0	0	0	0	0
	総コスト(A+B)		38,215	37,884	3,340	3,868	0	3,220	0	0	3,240	0
	人工(単位:人)		4.14									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市内の小学生、市民及び海外を含む市外の方	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	消防広報を実施することで、火災予防や地域防災に対する意識を高めるとともに次世代の担い手を育成し、消防力の総合的な強化を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	消防署・消防団による消防出初式の実施や、年報・各種パンフレット・ポスター等を活用して継続的な広報を実施します。また、学校教育及び地域教育に根付いた広報活動を実施します。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①消防出初式の実施 ②「消防年報」「かわさきの消防」等の各種広報資料の作成 ③消防副読本の見直しの実施	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①について、消防出初式を8つの会場で実施しました。 ②について、「消防年報」を220部、「かわさきの消防」を1,500部作成し火災予防や地域防災に対する意識を高めるための広報を実施しました。 ③について、昨年度電子化された副読本の内容を予防課と共に精査し、見直しの必要性等について検討を行いました。							
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位	
1	活動指標	「消防出初式」事業の実施回数	目標	8	8	8	8	回
	説明	防火防災意識の向上を高めるほか、消防行政への理解を深めるための式典として、市内の各地区において開催される消防出初式の実施回数	実績	8	—	—	—	
2	活動指標	「かわさきの消防」等、広報冊子の作成部数	目標	1,500	1,500	1,500	1,500	部
	説明	消防の仕事を知りやすく伝え、消防に対する理解を深めてもらう有効な広報媒体(冊子)の作成部数	実績	1,500	—	—	—	
3	活動指標	「消防カレンダー」の作成部数	目標	4,000	4,000	—	—	部
	説明	消防車両を各月に紹介したオリジナルカレンダーの作成部数 (本事業については令和5年度で開始から5年目の節目を迎えることから、令和6年度以降の目標値については、令和5年度中に実施予定の今後の方向性の検討結果等を踏まえて設定します。)	実績	4,000	—	—	—	
4	説明		目標	—	—	—	—	
			実績	—	—	—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、 規制緩和など)	更なる地域防災力の向上のためには、パンフレットやポスター等による消防広報が求められており、また、学校関係者や防災教育を通じて次世代を担う若者や子供たちに消防を身近に感じてもらい、防火防災知識を身につけていく必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 4 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載 できる場合は記載	令和4年度：消防カレンダー3,200部を市民に無料配布する事業を実施しました。また、消防カレンダー及び消防パンフレット「かわさきの消防」を作成し、誌面内に広告スペースを設け、合計20社から64万円の歳入を得ました。 令和3年度：消防カレンダー3,200部を市民に無料配布する事業を実施しました。また、消防パンフレット「かわさきの消防」を作成し、誌面内に1枠3万5千円の広告スペースを設け、合計8社から28万円の歳入を得ました。 令和2年度：消防カレンダー2,800部を市民に無料配布する事業を実施しました。幼児向け消防広報冊子「しょうぼうたいのひみつ」を2,000部作成し、誌面内に1枠3万5千円の広告スペースを設け、合計8社から28万円の歳入を得ました。 消防副読本については電子データへ移行しています。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	更なる地域防災力の向上のためには、パンフレットやポスター等による消防広報が求められており、また、学校関係者や防災教育を通じて次世代を担う若者や子供たちに消防を身近に感じてもらい、防火防災知識を身につけていくことが必要となります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	目標どおりに刊行物を作成し広報活動を継続実施することで、市民の皆様への認知度もあがり防災意識の高まりにつながっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	歳入の確保方法や、ペーパーレス化も考慮しながら実施方法を検討していく余地があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	消防カレンダー及び消防パンフレット「かわさきの消防」などを作成し、市民の皆様にご覧いただくことで、地域防災への意識向上につながります。また、次世代を担う若者や子供たちが広報冊子を目にすることで消防を身近に感じてもらうことができ、消防行政への信頼につながっています。

改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業 の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	市民の皆様により見やすく、わかりやすいパンフレットを作成していくために改善しながら継続していきます。また、歳入の抑制や紙の必要性も考慮しながら継続していきます。
第3期実施計画に記載されている 次年度の取組内容		①消防出初式の実施 ②「消防年報」「かわさきの消防」等の各種広報資料の作成 ③消防副読本の見直しの実施	
今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の取組内容 の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に 対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載							
	10104110	火災等の調査事務			無							
担当	組織コード	所属名										
	843910	消防局予防部予防課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—		その他	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 総務省消防庁による通知											
総合計画と連携する計画等												
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性		11	火災の原因を分析し、その結果を効果的に火災予防広報に活用し、火災の減少につなげることで、持続可能な都市を実現します。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名									
予決算 (単位: 千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		9,867	9,814	9,867	9,898	9,867		9,867		
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0		0	
			市債	0	—	0	0	0		0		
			その他特財	1,235	—	1,235	1,235	1,235		1,235		
			一般財源	8,632	—	8,632	8,663	8,632		8,632		
	人件費* B		910,382	910,382	0	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)		920,249	920,196	9,867	9,898	0	9,867	0	0	0	
	人工(単位:人)		108.07									

* 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民に対して、効果的な火災予防指導、広報等を行うことにより、火災による被害を減少させることを目的とします。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	火災調査の結果を分析するとともに、火災原因を判定し、出火防止策、死者の発生状況及び火災事例等により、市民に対して、効果的な火災予防指導、広報等を行います。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①適正な火災原因調査の実施及び火災調査員の調査知識・技術の向上への取組の推進 ②火災調査結果に基づく火災原因及び死傷者の発生状況の詳細分析の実施と消防広報事業との連携 ③火災事例及び出火防止策についての広報 ④各消防署で実施する火災調査への支援体制の確立 ⑤各種調査資器材の更新	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等により具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①鑑識支援や現場見分の支援を通じ、適正な火災調査を実施した結果、原因不明の火災はありませんでした。また、5月に指定調査員研修を行い、6月及び10月に消防大学校火災調査科、1月に神奈川県消防学校火災調査科に研修の一環で講師を派遣し、計4回、調査員の知識・技術向上を目的とした研修を実施しました。また、各署で実施している火災調査研修に講師として本部指定調査員を派遣し、実況見分要領等の講義を行いました。 ②・③火災原因及び死傷者発生状況等を分析し、ガストーチバーナーやたばこ火災の火災予防広報動画を作成したほか、着衣着火による火災の予防広報資料を作成し、消防訓練指導等で活用するとともに、報道機関及び市のホームページを通じて火災予防指導、広報等を実施しました。 ④本部調査員による調査の支援を80回実施しました。 ⑤火災調査用高機能デジタルカメラを1台更新しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	活動指標 調査員研修 説明 職員の知識・技術の向上を目的とした研修の回数	目標	4	4	4	4	回
		実績	4	—	—	—	
2	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
3	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
4	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>		火災は、市民の生命、身体及び財産に多大な被害をもたらしており、今後も火災件数とともに死傷者数を減少させる必要があります。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		H29年度:近年増加している製品火災時に各署の火災調査員を指導しながら、見分支援を積極的に行うとともに、消防大学校及び神奈川県消防学校における講師として、各署調査係長、指定調査員を派遣して、火災調査員の更なる知識・技術の向上を図りました。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	火災及び火災による被害を減少させるためには、適正な火災原因調査と原因究明した情報を基にした火災予防指導及び広報等が必要不可欠であり、また、民間等で実施している事例もありません。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	研修等による調査員の知識・技術の向上により、火災の原因を特定しており、その結果を火災予防指導及び広報等に適切に反映できていることから、事業成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	火災調査員の知識・技術の向上には、高度な分析機器の整備と実践的な研修が重要であり、それに伴う研修企画、資料等の作成及び火災予防広報用のデータを収集・分析することが必要不可欠です。今後も、この取り組みを継続することで職員の知識・技術が上がり、質を向上させる余地はあります。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	研修等により調査員の資質向上に努めたことで、適正な火災原因調査を実施し、全ての火災の原因を明らかにしました。また、原因調査の結果を、火災予防指導及び広報等に活用し、市民の火災予防思想の啓発を図りました。 前年と比較して18件火災件数が減少し、一定程度の施策への貢献はありました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①適正な火災原因調査の実施及び火災調査員の調査知識・技術の向上 ②火災調査結果に基づく火災原因及び死傷者の発生状況の詳細分析の実施と消防広報事業との連携 ③火災事例及び出火防止策についての広報 ④各消防署で実施する火災調査への支援体制の確立 ⑤各種調査資器材の更新
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 <small>(上記計画上の記載に対する変更箇所)</small>	
	変更の理由	

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	10104120			事務事業名	査察活動事業		政策体系別計画の記載	有			
	組織コード	843943			所属名	消防局予防部査察課						
実施期間	事業開始年度	—			事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	その他		分類2(内部事務)	—		
	事業終了年度	—				分類1(市民サービス等)	その他		分類2(内部事務)	—		
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度											
	(法令・要綱等)	消防法、川崎市火災予防査察規程										
総合計画と連携する計画等												
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性		11	市内の防火対象物への立入検査及び法令違反の是正指導に取り組み、防火対象物を適法な状態に維持管理させることで、火災の予防及び火災に因る被害の軽減につなげます。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目					課題名						
予決算 (単位: 千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		427	297	427	425	427			427	
		国庫支出金	0	—	0	0	0			0		
			市債	0	—	0	0	0			0	
			その他特財	0	—	0	6	0			0	
	一般財源	427	—	427	419	427			427			
人件費* B		642,920	642,920	0	0	0	0	0	0	0	0	
総コスト(A+B)		643,347	643,217	427	425	0	427	0	0	427	0	
人工(単位: 人)		76.32										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る	
	施策	消防力の総合的な強化	
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る	
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市内の防火対象物並びに防火対象物の所有者、管理者及び占有者		
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	防火対象物等を適法な状態に維持管理させることで、火災の予防及び火災による被害の軽減を図ります。		
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市内の防火対象物への立入検査及び法令違反の是正指導等を行います。		
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①査察基本計画に基づく効果的な査察活動の実施(立入検査実施数:3,500か所以上) ②社会的影響の大きい火災が発生した類似の施設等への特別立入検査の実施 ③「防火対象物に係る表示制度」(表示箇所:17か所以上)及び「違反対象物に係る公表制度」を活用した防火安全体制の推進		

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)			目標どおり達成できました。 ①の査察基本計画に基づく立入検査については、3,580か所実施し、法令違反の是正指導等を行いました。 ②の社会的影響の大きい火災の類似施設への特別立入検査については、今年度は該当する火災が発生しませんでした。ねんりんピック2022関連施設(24か所)、市立学校(13か所)、小規模雑居ビル(151か所)、繁華街の雑居ビル(5か所)、大規模物品販売店舗(27か所)及び直通階段が一つの防火対象物(45か所)に対する特別立入検査をそれぞれ実施し、法令違反の是正指導等を行いました。 ③の防火対象物に係る表示制度(防火基準適合表示制度)については、18か所表示しました。また、違反対象物に係る公表制度については、今年度3か所公表し是正指導を実施しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	活動指標	立入検査の実施数	目標	3,500以上	3,500以上	3,500以上	3,500以上	箇所
		説明	実績	3,580	—	—	—	
2	活動指標	「防火対象物に係る表示制度」に基づく表示箇所数	目標	17以上	17以上	17以上	17以上	箇所
		説明	実績	18	—	—	—	
3		説明	目標	—	—	—	—	
			実績	—	—	—	—	
4		説明	目標	—	—	—	—	
			実績	—	—	—	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	社会福祉施設において火災による犠牲者が絶えないことから、消防法施行令の改正により消防用設備等の規制強化、政令区分の細分化等が図られています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 2 年度 <input type="checkbox"/> 未実施		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R2年度:消防法施行規則等の一部改正に伴い、申請・届出に係る各種様式の押印が廃止されたことから、関連する要綱等の改正により押印を廃止しました。 H27年度:未把握の社会福祉施設を防止するため、立入検査対象外であった小規模対象物の実態調査を5箇年計画で実施することにしました。 H23年度:新設された社会福祉施設の情報を、関係部局と共有する連携体制を確立しました。 H22年度:社会福祉施設については、査察基準回数に依らず全てを立入検査実施対象物としました。		
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	社会福祉施設で火災が発生した場合に人命危険が高いこと、高齢化により小規模な高齢者施設等多様な施設が増加していること、テナントの入れ替わりの際に無届で使用を開始するため法令違反が増加していること等から、防火対象物を適法な状態に維持管理させ、火災の予防及び火災に因る被害を軽減するため、継続的に立入検査を実施する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	査察基本計画に基づく立入検査の実施数は目標を達成しており、また、「防火対象物に係る表示制度」に基づく表示箇所数についても目標を1箇所上回って達成していることから、成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	立入検査及び違反処理は、公権力の行使を伴う業務のため、民間活用の余地はありません。しかし、限りある人員で効率的・効果的な立入検査・違反処理を実施するため、検査対象、手法、体制等について検証し、必要な見直しを図りながら次年度以降の査察基本計画を企画・立案の上、実施していきます。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	活動指標である査察基本計画に基づく立入検査を目標どおり3,580か所実施し、防火対象物に係る表示制度に基づく表示についても18か所と目標を達成しています。また、社会的影響の大きい火災は発生していませんが、ねんりんピック2022関連施設、市立学校、小規模雑居ビル、繁華街の雑居ビル、大規模物品販売店舗及び直通階段が一つの防火対象物への特別立入検査を実施したことにより、火災予防及び火災に因る被害の軽減を図ることができたことから、施策への貢献はありました。

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	火災の予防及び火災に因る被害の軽減を図るために、事業を継続実施していきます。なお、事業の継続実施に当たり、限られた人員でより効果的・効率的な立入検査・違反処理を実施するため、検査対象、手法、体制等について検証を継続します。
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容			①査察基本計画に基づく効果的な査察活動の実施(立入検査実施数:3,500か所以上) ②社会的影響の大きい火災が発生した類似の施設等への特別立入検査 ③「防火対象物に係る表示制度」(表示箇所:17か所以上)及び「違反対象物に係る公表制度」を活用した防火安全体制の推進
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要												
事務事業	事務事業コード		事務事業名						政策体系別計画の記載			
	10104130		危険物施設等規制事業						有			
担当	組織コード		所属名									
	843950		消防局予防部危険物課									
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類			分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)				
	—	—	—			その他		—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 消防法、火薬類取締法、高圧ガス保安法、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律(以下「液石法」という。)、石油コンビナート等災害防止法											
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	11.b		危険物施設、火薬類施設及び高圧ガス施設を保有する事業所、石油コンビナート等災害防止法に規定する特定事業所への立入検査や当該事業所を対象とした講習会を毎年実施し、危険物施設等の事故防止対策の推進及び地震・津波・風水害対策を推進することで、当該事業所における事故防止及び災害発生時の被害低減を図ります。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目					課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		事業費 A	56,004	32,725	56,004	49,282	56,004		56,004			
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	0		0			
		市債	0	—	0	0	0		0			
		その他特財	56,004	—	56,004	49,282	56,004		56,004			
		一般財源	0	—	0	0	0		0			
	人件費* B	276,981	276,981	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	332,985	309,706	56,004	49,282	0	56,004	0	0	56,004	0	
	人工(単位:人)	32.88										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)		
政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	危険物施設、火薬類施設、高圧ガス施設の所有者等、石油コンビナート等災害防止法に規定する特定事業者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	危険物事故を防止するとともに、石油コンビナート区域における危険物施設等の地震・津波対策を推進することで被害の拡大防止を図ることを目的とします。また、火薬類施設及び高圧ガス施設について事故防止及び被害の拡大防止を図ることを目的とします。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	危険物施設の立入検査や講習会を開催し、危険物事故防止に向けた指導を図ります。また、屋外タンクの早期耐震化のほか、石油コンビナート等防災計画に基づき危険物施設等の地震・津波対策の推進を図ります。更に、火薬類施設及び高圧ガス施設について事務執行体制を確立させ、立入検査を行うことで、事故防止に向けた指導を図ります。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①危険物保有事業所への立入検査の実施(立入検査実施数:年430か所以上) ②危険物保有事業所の安全担当者講習会の開催(受講者数:年200人以上) ③特定事業所の特定防災施設等の地震津波対策の応急措置の実施を指導 ④ガイドラインを活用した風水害対策の充実強化 ⑤内部浮き蓋付特定屋外タンク貯蔵所の耐震基準適合化の推進 ⑥高圧ガス保安法、火薬類取締法及び液石法の事務・権限の移譲に伴う事務の実施 ・高圧ガス保安法(コンビナート地域除く)及び火薬類取締法の権限移譲に伴う事務執行体制の確保 ・液石法の権限移譲に向けた国との調整 ・高圧ガス保安法(コンビナート地域)の権限移譲に向けた県との調整	

実施結果 (Do)		
上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①危険物保有事業所の立入検査の実施については目標430か所のところ、485か所実施し、法令違反等については違反是正指導を実施しました。 ②安全担当者講習会については、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じつつ、対面方式で開催しました。年3回の開催のうち、6月については104事業所へ案内を送付したところ、52人が対面、21人がWEB配信で参加。さらに、各署担当者15人がWEB配信で参加、一部の署で実施した当該講習会の同時WEB配信講習会に事業所担当者22人が対面で参加したことで、合計110人が受講することができました。11月については、108事業所へ案内を送付したところ、43人が対面で参加しました。さらに各署担当者7人がWEB配信により参加したことで、合計50人が受講することができました。3月については、51事業所へ案内を送付、100人がWEB配信で参加。さらに各署担当者12人がWEB配信により参加、合計112人が受講することができました。年3回の開催で受講者は合計272人となりました。 ③特定事業所の特定防災施設等の地震津波対策の応急措置の実施については、立入検査等の機会を通じて指導しました。 ④ガイドラインを活用した風水害対策の充実強化については、立入検査等の機会を通じて指導しました。 ⑤内部浮き蓋付特定屋外タンクの新基準適合については、対象タンク61基中51基が令和4年度末までに基準適合となりました。なお、該当タンク保有事業所の事情で改修が遅れたため、改修率は83.6%と目標を下回ったものの、適合期限である令和5年度末には全ての耐震化が完了することを確認しています。 ⑥高圧ガス保安法及び火薬類取締法については、県下で事務処理を統一するよう調整を図り、移譲された事務を適正に行うとともに、立入検査を目標100か所に対して118か所実施しました。また、液石法については令和5年度の事務開始に向け、組織体制の整備等に取り組まれました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標（指標の説明）	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	活動指標 危険物施設の立入検査を実施した事業所数 説明 予防規程の対象施設が存する事業所はすべて実施し、対象外の危険物施設が存する事業所は2年に1回の割合で実施しており、事業所数はその合計	目標	430	430	430	430	箇所
		実績	485	—	—	—	
2	活動指標 火薬類施設及び高圧ガス施設の立入検査の実施数 説明 火薬類取締法に基づく施設や消費場所への立入検査及び高圧ガス施設への立入検査数の合計	目標	100	100	100	100	箇所
		実績	118	—	—	—	
3	成果指標 安全担当者講習会の受講者数 説明 消防局で開催する安全担当者講習会の受講者の合計	目標	200	200	200	200	人
		実績	272	—	—	—	
4	成果指標 内部浮き蓋付き特定屋外タンクの新基準の適合率 説明 内部浮き蓋付き特定屋外タンク新基準適合済みのタンク数÷内部浮き蓋付き特定屋外タンク総数（法令で定める適合期限が令和5年度末のため、令和6年度以降、目標値を「—」としています。）	目標	85	100	—	—	%
		実績	83.6	—	—	—	

評価（Check）

事業を取り巻く社会環境の変化 （国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など）	全国的に危険物施設の数が減少傾向にあるにも関わらず、ここ数年、事故件数は高止まっており、本市においては増加傾向にあります。国では危険物等事故防止対策実施要領を示し、官民一体となった事故防止対策を推進しています。また、火薬類取締法及び高圧ガス保安法の事務・権限が県から政令市へ移譲されたことから、事務執行体制の確保に向けて取り組む必要があります。
事業の見直し・改善内容 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	<input checked="" type="checkbox"/> 実施（直近） R 2 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 R2年度：「危険物の規制に関する規則」等の改正に伴い、申請・届出に係る各種様式の押印が廃止されたことから、関連する市規則、規程等の改正により押印を廃止しました。 H30年度：高圧ガス保安法の事務を開始しました。 H29年度：火薬類取締法の事務を開始しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
有効性	【成果】 活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	内部浮き蓋付き特定屋外タンクの新基準適合については、該当タンク保有事業所の事情で改修が遅れたため、令和4年度末時点で83.6%と目標を下回ったものの、適合期限である令和5年度末に向けて徐々に成果が上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な（過小でも、過大でもない）規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部（職員・組織）の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
評価の理由	行政側で把握している事故事例を提供することや屋外タンクの新基準適合把握については機密性が高く、委託はできないため、今後も継続する必要があります。		
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	危険物施設においては、ひとたび事故が起こると広範囲にわたり重大な影響を与える可能性があります。よって、コンビナート事業所の防災施設の地震・津波対策を推進するとともに、耐震基準を満たす必要のある屋外タンクについて、立入検査等の際に、令和5年度末の適合期限までの改修工事計画を提出させる等、早期基準適合を指導することで、新基準適合率は令和4年度末で、83.6%となりました。事業所の計画変更等があるものの、期限内にすべての改修工事が終了することが確認できていることから、施策への貢献はありました。

改善（Action）

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ①危険物保有事業所への立入検査の実施（立入検査実施数：年430か所以上） ②危険物保有事業所の安全担当者講習会の開催（受講者数：年200人以上） ③特定事業所の特定防災施設等の地震津波対策の応急措置の実施を指導 ④ガイドラインを活用した風水害対策の充実強化 ⑤内部浮き蓋付き特定屋外タンク貯蔵所の耐震基準適合化の完了 ⑥高圧ガス保安法、火薬類取締法及び液化石油ガス法の事務・権限の移譲に伴う事務の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・高圧ガス保安法（コンビナート地域除く）、火薬類取締法及び液化石油ガス法の権限移譲に伴う事務執行体制の確保 ・高圧ガス保安法（コンビナート地域）の権限移譲に向けた県との調整
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 （上記計画上の記載に対する変更箇所）	③削除【事業完了（令和4年度）】
	変更の理由	③全ての特定事業所の特定防災施設等の地震津波対策の応急措置が完了したことを確認したため

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載								
	10104140	消防音楽隊等活動事業			無								
担当	組織コード	所属名											
	841300	消防局総務部人事課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	昭和37年度	—	その他	—	—								
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市消防音楽隊の設置等に関する規程												
総合計画と連携する計画等													
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	17	17.17	市民と行政が一体となった火災予防の普及啓発に取り組むとともに、市政への理解と協力を広く市民に呼びかけることで、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップの構築を推進します。										
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名										
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度					
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A		3,956	3,167	3,956	4,124	3,956		3,956			
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0		0		
			市債	0	—	0	0	0		0		0	
			その他特財	900	—	900	900	900		900			
			一般財源	3,056	—	3,056	3,224	3,056		3,056			
	人件費* B		7,582	7,582	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)		11,538	10,749	3,956	4,124	0	3,956	0	0	3,956	0	0
	人工(単位:人)		0.9										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、消防職員	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	演奏を通じた防火・防災意識の普及啓発をはじめ、市政全般の広報活動に取り組むことで、川崎市のイメージアップ推進を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	消防の諸行事や各局・区が主催するイベント等において、演奏やカラーガード演技を実施することにより、市民に対し防火・防災の普及啓発をはじめ、各種の市政に係る広報を幅広く行います。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①関係団体からの依頼に基づく演奏・演技の実施 ②効果的な広報活動の実施 ③少人数及びカラーガード隊演奏を中心とした演奏・演技の実施 ④演奏会開催時の広告収入等による経費確保 ⑤楽器及び被服の適正な更新	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①及び②については、新型コロナウイルス感染症の影響が続く、コロナ禍前に比べて少ない回数でしたが、103件の演奏活動を実施したほか、動画を作成してオンライン配信や大型ビジョン等による広報を実施しました。 ③については、カラーガード隊を中心とした演奏・演技を71件実施しました。 ④については、演奏会開催時の広告収入により330千円の経費を確保しました。 ⑤については、劣化した被服の一部を更新しました。							
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位	
1	活動指標	カラーガード隊単独派遣	目標	—	—	—	—	件
	説明	専門職員であるカラーガード隊員による演奏の件数 (実績管理のための参考指標のため、目標値は設定していません。)	実績	71	—	—	—	
2	説明	目標	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—		
3	説明	目標	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—		
4	説明	目標	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—		

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		火災予防をはじめとする各種消防広報のほか、市主催行事や協働事業における行政広報等、毎年多く寄せられる派遣要請に応えるため、派遣方法の検討や広報活動の内容等、活動の効率化(少人数による演奏活動、カラーガード隊単独による演奏活動等)・高度化(高水準の演奏、演技活動等)に向けた取組が求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 3 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R2年度～R3年度:カラーガード隊員3人を減じました。 R2年度:音楽隊業務に専従する消防吏員1人を減じました。 H30年度:定期演奏会の来場者に配付するプログラムの様式を見直し、広告収入による経費確保を実施しました。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由 この事業の主たる目的は、行政組織による情報発信であり、消防はもとより、他局や区からの様々な要請に対応しています。新型コロナウイルス感染症により演奏回数が減少しましたが、現在は回復傾向であるとともに、コロナ禍前とほぼ同数の依頼が継続しています。また、市民が主催する行事についても、消防広報に効果が認められる場合には協力しておりますが、同様の傾向です。		
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由 様々な依頼内容に対応できるよう、編成の多様化、演奏・演技の技術向上、広報効果の向上に取り組んでいます。また、オンライン配信や大型ビジョン等による広報など、新たな手法にも取り組んでいることから、成果は上がっています。		
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由 この事業は、消防職員が市民に直接広報することに意義があるため、民間への委託は困難です。事業手法については、積極的な歳入確保に取り組んでおり、さらなる増額を目指します。また、令和4年度中における区制周年記念事業等のような、増加傾向にある様々な要請に対応するため、今後も継続して技術向上と効率化に取り組み、質の向上をさらに推進します。		
施策への貢献度	貢献度区分 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 消防の式典や火災予防広報、市の行事等で演奏し、観客や行事主催者から好評を得ていることから、一定程度の施策への貢献がありました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分 I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 火災予防をはじめとする様々な行政課題に理解と協力を求め、市民の主体的な行動を喚起して、地域が一体となった街づくりを推進するために、より質の高い演奏・演技を目指して活動してまいります。また、広告収入等による経費確保に取り組み、継続的・安定的な事業の拡充を推進します。
	第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①関係団体からの依頼に基づく演奏・演技の実施 ②効果的な広報活動の実施 ③少人数及びカラーガード隊演奏を中心とした演奏・演技の実施 ④演奏会開催時の広告収入等による経費確保 ⑤楽器及び被服の適正な更新
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載						
	10104150	消防車両等管理業務				無						
担当	組織コード	所属名										
	841500	消防局総務部施設装備課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—	その他	—								
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 消防法、消防法施行令、消防法施行規則、消防力の整備指針、道路交通法、道路運送車両法、川崎市消防局車両管理規程											
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性		13.1	消防車両及び高度救助資器材等の運用体制の整備等を行い、災害活動の迅速かつ的確な実施体制の維持を図ることで、災害に対する強靱性等を強化します。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名								
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		541,662	533,952	701,417	434,266	980,756		1,077,089		
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0		0	
			市債	326,000	—	476,000	216,000	753,000		807,000		
			その他特財	56,559	—	41,472	37,196	41,472		41,472		
			一般財源	159,103	—	183,945	181,070	186,284		228,617		
	人件費* B		56,188	56,188	0	0	0	0	0	0	0	0
	総コスト(A+B)		597,850	590,140	701,417	434,266	980,756	0	1,077,089	0	0	
	人工(単位:人)		6.67									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	消防車両等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	消防車両及び高度救助資器材等の整備等を行い、災害活動の迅速かつ的確な実施体制の維持を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	消防車両等の更新、整備、法定点検及び修繕等を行い適切に維持管理します。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①更新基準に基づく必要な装置等の整備及び計画的な消防車両の更新 ②消防車両、特殊車両、消防団車両等の法定及び保守点検の実施 ③高度救助資器材の保守点検の実施	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①消防車両、特殊車両、消防団車両24台の車両を計画的に更新しました。 ②消防車両、特殊車両、消防団車両162台の法定点検等について、計画どおり実施しました。 ③高度救助資器材(二酸化炭素探査装置1基)の保守点検を計画どおり実施しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	活動指標 説明 消防車両等の点検実施台数	目標	162	162	162	162	台
		実績	162	—	—	—	
2	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
3	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
4	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	


評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		必要な消防力を維持し強化していくためには、進展する技術等を導入した機械器具の整備などを効果的に行い、社会情勢の変化に伴う新たな形態の災害へも対応していくことが求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近) R 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	複雑多様化する災害へ対応するため、消防車両については、最新の装備、性能を取り入れつつ、計画的に更新整備することが求められています。迅速、円滑、安全な消防活動により市民の生命・身体・財産を守るためにも、適正に消防車両を管理することが必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	消防力の整備指針に基づく消防力の充実・強化を進め、地域特性に合った消防車両を配置することにより、複雑多様化する災害への的確な対応が可能となっているため、事業成果は徐々に上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	消防車両の適正な維持・管理という特殊性があり、民間委託等はそぐわないものの、製作車両の仕様内容の調整などにより機能を強化し、各種補助金の対象とすることによって効果的な事業の推進の可能性はありとされています。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	消防車両の計画的な更新及び法定点検を着実に実施するとともに、資器材の整備も実施できたことから、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	複雑多様化する災害へ対応するため、製作車両の仕様改善を図りつつ強固な防災体制を構築する必要があることから、事業を継続していきます。
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①更新基準に基づく必要な装置等の整備及び計画的な消防車両の更新 ②消防車両、特殊車両、消防団車両等の法定及び保守点検の実施 ③高度救助資機材の保守点検の実施	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載						
	10104160	救急車両管理業務				無						
担当	組織コード	所属名										
	841500	消防局総務部施設装備課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—		その他	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 消防法、消防法施行令、消防法施行規則、消防力の整備指針、道路交通法、道路運送車両法、川崎市消防局救急用資器材管理要綱、救急救命土法、救急救命土法施行令、救急救命土法施行規則											
総合計画と連携する計画等												
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性		13.1	救急車両等の整備を行い、救急活動の迅速かつ的確な実施体制の維持を図ることで、災害等に対する強靱性等を強化します。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	事業費 A	210,361	211,225	210,361	255,219	210,361			177,394			
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	0			0		
		市債	165,000	—	165,000	211,000	165,000			145,000		
		その他特財	10,650	—	10,650	0	10,650			0		
		一般財源	34,711	—	34,711	44,219	34,711			32,394		
	人件費 [※] B	6,739	6,739	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	217,100	217,964	210,361	255,219	0	210,361	0	0	177,394	0	0
	人工(単位:人)	0.8										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	救急車両	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	救急車両等の整備を行い、救急活動の迅速かつ的確な実施体制の維持を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	救急車両等の更新、整備、法定点検及び修繕等を行い適切に維持管理します。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①更新基準に基づき必要な装置等の整備及び計画的な救急車両の更新 ②救急車両の法定及び保守点検の実施 ③高度救命処置用資器材の更新	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①更新基準に基づき計画的に救急車を6台更新しました。 ②救急車両37台の法定点検を実施しました。また、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、救急車の予備バッテリーを全数分購入し、新型コロナウイルス感染症感染による救急需要増加に備えました。 ③高度救命処置用資器材(人工呼吸器・電動吸引器・救急搬送用モニター等)を6セット更新しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	活動指標 説明 救急車両の法定点検実施台数	目標	38	39	37	37	台
		実績	38	—	—	—	
2	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
3	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
4	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		救急件数は人口増と高齢化のため増加を続けており、今後、人口増加(令和12年ピーク)、超高齢化により救急件数が今まで以上に増加することが見込まれます。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 4 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R4年度:新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う救急需要の増加に備えるため、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、救急車の予備バッテリーを全台数分購入しました。(令和4年6月30日)	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	人口増、高齢化などの社会情勢の変化に対応するため、救急車両については、計画的に更新整備することが求められています。増加する救急需要に対応するためにも、適正に救急車両を管理する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	消防力の整備指針に基づく消防力の充実・強化を進めており、救急需要に対応していることから、事業成果は徐々に上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	救急車両の適正な維持・管理という特殊性があり、民間委託等はそぐわないものの、製作車両の仕様内容の調整などにより機能を強化し、各種補助金の対象とすることによって効果的な事業の推進の可能性があると考えています。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	救急車両の計画的な更新及び法定点検を着実に実施するとともに、必要となる救急資器材の整備を図ることで、救急活動を維持できたことから、一定程度の施策への貢献はありました。

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	救急需要に的確に対応するため、高度化する救急活動に必要な不可欠である高性能な救急車両及び充実した救命処置用資器材を整備する必要があることから、事業を継続していきます。
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①更新基準に基づく必要な装置等の整備及び計画的な救急車両の更新 ②救急車両の法定及び保守点検の実施 ③高度救命処置用資器材の更新	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要												
事務事業	事務事業コード	事務事業名									政策体系別計画の記載	
	10104170	庁舎等整備事業									有	
担当	組織コード	所属名										
	841500	消防局総務部施設整備課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類			分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)				
	—	—				その他		—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 消防法、建築基準法、建築基準法施行令、川崎市庁舎管理規則、川崎市庁舎管理要綱											
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	 13.1	消防力の基盤となる防災拠点の整備を計画的かつ効率的に行い、迅速な出場や確実な消防活動及び良好な執務環境を確保し、消防力の強化を図ります。										
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目					課題名						
予決算 (単位: 千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	事業費 A	362,011	403,017	433,168	577,861	433,168			433,168			
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	0			0		
		市債	1,000	—	54,000	65,000	54,000			54,000		
		その他特財	50,058	—	60,966	59,612	60,966			60,966		
		一般財源	310,953	—	318,202	453,249	318,202			318,202		
	人件費 [*] B	88,115	88,115	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	450,126	491,132	433,168	577,861	0	433,168	0	0	433,168	0	
	人工(単位:人)	10.46										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)		
政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	補修・改修・改築工事等を必要とする消防庁舎等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	消防署所等の施設、設備の点検及び整備を実施することで、防災拠点機能の確保を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	かわさき資産マネジメントカルテ及び庁舎の劣化状況を踏まえて、改築対象となっていない消防署所や附帯設備について計画的な補修・改修工事を実施していくとともに、消防団器具置場については、改築・改修等による適切な整備を実施します。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	① 庁舎等の適切な整備の推進及び緊急を要する補修工事の実施 ② 消防団器具置場の適切な整備の推進及び緊急を要する工事の実施 ・住吉西班器具置場改築工事に伴う設計	

実施結果 (Do)									
上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成		4. 目標を下回った				
			2. 目標を上回って達成		5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)		目標どおり達成できました。 ① 消防署所や附帯設備について、ホース乾燥塔やシャッターなどの改修・補修工事を実施しました。 ② 住吉西班器具置場改築工事に伴う基本・実施設計を完了しました。							
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位	
1	活動指標	消防団器具置場の改築・改修工事等の実施箇所数	目標	0	1	1	1	箇所	
		説明 老朽化した消防団器具置場の改築・改修工事等の実施箇所数	実績	0	—	—	—		
2			目標						
		説明	実績	—	—	—	—		
3			目標						
		説明	実績	—	—	—	—		
4			目標						
		説明	実績	—	—	—	—		


評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		従前までは35～40年で建替えによる更新をしていましたが、平成26年3月にかわさき資産マネジメントカルテが策定され、ある一定規模の庁舎等建築物においては、長寿命化工事等により目標耐用年数を60年以上とされました。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		H29年度: 王禅寺出張所の長寿命化対策を踏まえた改修工事が完了しました。 H27年度: 財政局資産運用課と共同検討し、王禅寺出張所に対しての長寿命化対策を講じました。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	消防活動を行うための防災拠点となることから、かわさき資産マネジメントカルテや第3期実施計画、費用対効果を踏まえた適切な庁舎整備や、消防団器具置場の適切な整備により市民サービスの低下を防ぐ必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	計画的な取組の実施により、確実な消防活動や、庁舎の良好な執務環境等を確保できていることから、成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	・事業の取組内容のうち、消防団器具置場整備については、合築等によるコスト削減、自動販売機等の効果的な設置による蔵入効果について検討の余地があります。 ・補修工事等については、仕様の見直しや工事手法の検討などを行い、引き続き効果的な事務改善を図っていきます。また、現状では事業維持となりますが、事業規模を拡大する余地がある場合、今以上の水準において事業を推進することが可能となります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	災害時における防災拠点機能を確保するため、庁舎等の改修や補修を実施するとともに、改築工事に伴う基本・実施設計について、予定どおり実施していることから、施策への貢献はありました。



改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	庁舎等の改修、補修については、防災拠点の確保へと繋がることや市民サービスの低下を防ぐため、早期に実施する必要があることから、市の財政状況や庁舎の老朽化状況を踏まえつつ関係部局と協議しながら、計画的に推進していきます。
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①(仮称)消防施設整備方針に基づく庁舎等の整備の推進及び緊急を要する補修工事の実施 ②(仮称)消防施設整備方針に基づく消防団器具置場の整備の推進及び緊急を要する工事の実施 ・住吉西班器具置場改築工事の完了	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)	①庁舎等の適切な整備の推進及び緊急を要する補修工事の実施【変更(令和5年度)】 ②消防団器具置場の適切な整備の推進及び緊急を要する工事の実施【変更(令和5年度)】 ・住吉西班器具置場改築工事の完了	
	変更の理由	①②消防署所改築事業における「(仮称)消防施設整備方針の策定【令和4年度完了目標としていた取組】」について、令和4年夏以降の救急需要の大幅な増加により、これを踏まえた施設整備の検討を行った上で(仮称)消防施設整備方針を策定する必要が生じたため。	

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載							
	10104180	警防資器材等管理業務			無							
担当	組織コード	所属名										
	841500	消防局総務部施設装備課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—	その他	—	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 消防法、消防組織法、船舶安全法、労働安全衛生法、川崎市消防局警防用資器材管理要綱											
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性		13.1	警防資器材等の維持管理等を適正に行うことで、災害活動時の隊員の身体保護、円滑な災害対応の実施を図ることで、災害等に対する強靱性等を強化します。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		50,408	49,632	50,408	52,731	50,408		50,408		
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0		0	
			市債	0	—	0	0	0		0		0
			その他特財	15,820	—	15,820	15,421	15,820		15,820		
			一般財源	34,588	—	34,588	37,310	34,588		34,588		
	人件費* B		342,351	342,351	0	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)		392,759	391,983	50,408	52,731	0	50,408	0	50,408	0	
	人工(単位:人)		40.64									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	警防資器材等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	警防資器材等の維持管理等を適正に行うことで、災害活動時の隊員の身体保護、円滑な災害対応活動の実施を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	警防資器材の更新、整備、修繕等を行い適切に維持管理します。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①警防資器材等の計画的な更新整備 ②高圧ガスボンベ等の維持管理	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①警防資器材等の更新整備については、上下式防火衣105着、消防用ホース80本、軽量空気ボンベ20本、空気呼吸器8基、泡消火薬剤9、820Lの更新を行いました。 ②高圧ガスボンベ等の維持管理については、鋼製容器128本、水中容器15本、FRP容器329本の容器再検査を実施しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1 活動指標	警防資器材(防火衣)の更新整備数	目標	—	—	—	—	着
	説明 消防隊、救助隊用上下式防火衣の更新整備数 (実績管理のための参考指標のため、目標値は設定していません。)	実績	105	—	—	—	
2 活動指標	高圧ガスボンベ等の再検査実施数	目標	—	—	—	—	本
	説明 鋼製容器、水中容器、FRP容器の再検査実施数 (実績管理のための参考指標のため、目標値は設定していません。)	実績	472	—	—	—	
3		目標					
	説明	実績	—	—	—	—	
4		目標					
	説明	実績	—	—	—	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		必要な消防力を維持し強化していくためには、進展する技術等を導入した機械器具の整備等を効果的に行い、社会情勢の変化に伴う新たな形態の災害へも対応していくことが求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	災害の多様化や大規模な自然災害も危惧されており、複雑多様化する災害へ対応するため、最新の技術を取り入れた警防資器材の導入及び維持管理が求められています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	機材の仕様検討や更新により、複雑多様化する災害への的確な対応ができていることから、成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	民間委託等はそぐわないものの、仕様内容の調整やより効率性の高い資器材を導入していくことにより、経費削減の可能性はあると考えています。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	警防資器材の計画的な更新を着実に実施することにより、円滑な災害活動及び活動隊員の身体保護を図ることができたことから、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	複雑多様化する災害等へ的確に対応するため、資器材の仕様変更を図りつつ、事業を継続していきます。
第3期実施計画に記載されている 次年度の取組内容		①警防資器材等の計画的な更新整備 ②高圧ガスポンペ等の維持管理	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載				
	10104190	救助活動事業				有				
担当	組織コード	所属名								
	843100	消防局警防部警防課								
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)					
	—	—		その他	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他									
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度									
(法令・要綱等)										
総合計画と連携する計画等										
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	 13.1	各種災害を想定した訓練、研修及び資器材の整備に取り組み、救助隊の活動能力を向上することにより、災害対応力の強化につなげます。								
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名							
予決算 (単位: 千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度		
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	9,562	10,052	9,562	9,745	9,562		9,562		
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	0		0	
		市債	0	—	0	0	0		0	
		その他特財	0	—	0	0	0		0	
		一般財源	9,562	—	9,562	9,745	9,562		9,562	
人件費* B	258,870	258,870	0	0	0	0	0	0		
総コスト(A+B)	268,432	268,922	9,562	9,745	0	9,562	0	0		
人工(単位: 人)	30.73									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	消防職員、警防資器材	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	各種災害を想定した訓練を実施し、人命救助に必要な知識と技術を有する救助隊員を育成することで、救助部隊の活動強化と総合的な災害対応力の向上を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	各種救助事業に対応する訓練と、救助に必要な資格等の取得及び専門的な研修への職員派遣を実施することで、各救助隊の技術と知識の向上を図るほか、活動に必要な資器材を整備し、総合的な災害対応力の強化を行います。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①大規模災害やテロ災害等を想定した関係機関との合同訓練の実施 ・若手隊員の育成及び指導力の強化 ②救助活動に係る研修の開催及び外部研修への派遣による救助知識の強化 ③複雑多様化する災害に対応するための資器材等の整備 ④他機関及び県内各消防本部等との連携強化に向けた訓練の実施	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①関係機関との合同訓練については、年間を通じて13回実施しました。 ②外部機関が主催する専門的な各種研修へ年間を通じて4回派遣しました。 ③各種救助活動用資器材等を市内8消防署及び緊急消防援助隊活動拠点に配備しました。 ④県内各消防本部との連携強化に向けた訓練を年間を通じて3回実施しました。							
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位	
1	活動指標	大規模災害等を想定した関係機関との合同訓練の実施回数	目標	8	8	8	8	回
		説明	実績	13	—	—	—	
2	活動指標	外部機関主催の専門的講習会等への参加	目標	1	1	1	1	回
		説明	実績	4	—	—	—	
3	活動指標	県内各消防本部との合同訓練の実施回数	目標	1	1	1	1	回
		説明	実績	3	—	—	—	
4			目標					
		説明	実績	—	—	—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	近年の社会情勢から国内におけるテロ災害の発生が危惧されていることや、気候変動の影響により大規模な自然災害が発生していることから、テロ対策を始め大規模自然災害対応に必要な研修及び訓練の更なる実施並びに資器材等の充実配備が課題となります。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	テロ災害及び大規模自然災害等における災害対応は民間でサービス提供しているものではなく、各種災害において人命救助を専門とする消防機関の役割として、今後も関係防災機関と連携していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	外部機関主催による専門的な研修を受講した職員が、他の救助隊員にフィードバックを行い、知識と救助技術の向上を図るとともに、関係機関及び他本部との合同訓練を実施することにより、連携を強化することができていることから、成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	大規模災害やテロ災害等への対応は、民間活用による見直しの余地はなく、今後も現行の人員体制、費用を維持し、市民を災害から守るための取組を推進する必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	専門的な外部研修への職員の派遣や、関係機関及び県内消防本部等との合同訓練の実施、また、救助活動用資器材の配置による災害対応力の強化がされており、施策への貢献がありました。

改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	・大規模災害及びテロ災害を想定した合同訓練を、関係機関と連携して実施し対応力を強化させるとともに、若手隊員に活動要領を習得させる等、能力の向上に取り組みます。 ・外部機関主催の専門的な研修に職員を派遣し、専門知識や資格を習得させるとともに、災害対応用資器材の配備を継続して行い、市民の生命を災害から守る基盤の向上を推進していきます。
	第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容	①大規模災害やテロ災害等を想定した関係機関との合同訓練の実施 ・若手隊員の育成及び指導力の強化 ②救助活動に係る研修の開催及び外部研修への派遣による救助知識の強化 ③複雑多様化する災害に対応するための資器材等の配備 ④他機関及び県内各消防本部等との連携強化に向けた訓練の実施	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載							
	10104200	活動計画・出場計画に関する業務			無							
担当	組織コード	所属名										
	843100	消防局警防部警防課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—	その他	—	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市消防局警防規程											
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	 13.1	気候変動や社会情勢の変化等に即した既存の計画等の見直し及び必要な改正又は新規策定を進めることで、自然災害に対する適応能力の強化につなげます。										
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	事業費 A	0	0	0	0	0			0			
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	0	0			0		
		市債	0	-	0	0	0			0		
		その他特財	0	-	0	0	0			0		
		一般財源	0	-	0	0	0			0		
	人件費* B	695,148	695,148	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	695,148	695,148	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人工(単位:人)	82.52										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	警防計画等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	既存の警防計画等の見直し及び必要に応じた改正又は新規策定により、災害時における消防隊の適切かつ効率的な運用を図ることで、大規模災害への対応力の向上を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	国及び県との調整並びに県内政令市及び関係市との連携を行い、消防隊等の活動指針及び警防計画を随時見直し、必要に応じて改正又は新規策定を行います。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①社会情勢の変化等に即した既存の警防計画等の見直し及び必要に応じた改正又は新規策定	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標通り達成できました。 ①次のとおり既存の各種計画等の見直し及び必要に応じた改正等を実施しました。 ・神奈川県下消防相互応援協定の一部改正 ・川崎市消防局警防規程第42条に基づく出場表の一部改正について ・川崎市消防広域応援計画の一部改正について ・川崎市消防受援計画の一部改正について						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
2	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
3	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	
4	説明	目標					
		実績	—	—	—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		社会情勢の変化や近年の激甚化・多様化する各種災害に対応するため、既存の警防計画の改正又は策定が求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	社会情勢の変化や近年の激甚化・多様化する各種災害に対応するため、事業の必要性が増えています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	既存の計画等の見直し及び検証作業を行い、必要に応じた改正を進めています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	既存計画等の見直し及び検証作業を行い、必要に応じた改正等を行うことで災害時における消防隊の適切かつ効率的な運用を図るとともに、大規模災害等への対応力を向上させることができました。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	災害時における消防隊の適切かつ効率的な運用及び大規模災害等への対応力を向上させることは、市民の安全を守る上で、重要な事項であることから、今後も事業を継続して、安全・安心なまちづくりの推進に寄与していきます。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	I	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了		災害時における、消防隊の効率的、効果的な運用は、大規模災害時には特に重要であり、市民の安全を守る上で必要不可欠であることから事業を継続して、安全・安心なまちづくりを推進していきます。
第3期実施計画に記載されている 次年度の取組内容		①社会情勢の変化等に即した既存の警防計画等の見直し及び必要に応じた改正又は新規策定	
今後の事業の方向性を 踏まえた次年度の取組内容 の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要												
事務事業	事務事業コード		事務事業名						政策体系別計画の記載			
	10104210		特殊災害対策業務						無			
担当	組織コード		所属名									
	843100		消防局警防部警防課									
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類			分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)				
	—	—	その他			—		—				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 神奈川県原子力防災活動資機材等維持管理費補助金交付要綱											
総合計画と連携する計画等												
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	 11.b 特殊災害に対する資器材の整備及び職員の育成に取り組み、特殊災害対策の強化につなげます。											
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目					課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		704	704	704	924	704			704	
		国庫支出金	0	—	0	0	0			0		
			市債	0	—	0	0	0			0	
			その他特財	704	—	704	924	704			704	
		一般財源	0	—	0	0	0			0		
	人件費 [※] B		2,948	2,948	0	0	0	0	0	0	0	0
総コスト(A+B)		3,652	3,652	704	924	0	704	0	0	704	0	
人工(単位:人)		0.35										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)		
政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	消防職員、警防資器材	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	特殊災害の対策を強化するとともに、職員を育成することで、特殊災害対応能力の向上を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	特殊災害に対する必要資器材を充実強化し、特殊災害に関する専門的な研修及び講習会等に職員を派遣して、特殊災害対応能力の向上を図ります。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①特殊災害及び震災対策等に必要資器材の整備 ②県及び外部機関が主催する専門的な講習会等への職員の派遣	

実施結果 (Do)									
上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成		4. 目標を下回った				
			2. 目標を上回って達成		5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)		目標とおり達成できました。 ①特殊災害及び震災対策等に必要資器材の整備については、測定器等の点検・校正及び消耗品等を購入して各消防署に配置しました。 ②県及び外部機関が主催する専門的な講習会等へ、合計4回15人を派遣しました。							
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位	
1	活動指標	専門的な講習会等への職員の派遣回数	目標	1	1	1	1	回	
		説明 県及び外部機関が主催する専門的な講習会の参加件数	実績	4	—	—	—		
2			目標						
		説明	実績	—	—	—	—		
3			目標						
		説明	実績	—	—	—	—		
4			目標						
		説明	実績	—	—	—	—		


評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたグローバル化や近年の社会情勢から国内におけるテロ災害の発生が危惧されています。また、新たな技術開発及び社会基盤の変化等に伴う特殊な災害への対策が求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	近年の社会情勢から国内でのテロ災害の発生が危惧されており、特殊災害対策へのニーズは高く、また、民間等でサービス提供している事例はなく、今後も事業を推進していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	資器材の充実強化及び各種研修への参加により、総合的な特殊災害対応能力の向上ができていることから、成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	特殊災害対策については、民間活用及び契約等の見直しによるコスト等の削減を図れるものではありません。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	資器材の充実強化及び各種研修への参加により、総合的な特殊災害対応能力の向上ができたことから、施策への貢献はありました。



改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	特殊災害対応資器材の整備及び専門的な研修を受講して職員の能力向上を図り、総合的な特殊災害対応能力の向上に取り組んでいきます。
第3期実施計画に記載されている 次年度の取組内容		①特殊災害及び震災対策等に必要な資器材の整備 ②県及び外部機関が主催する専門的な講習会等への職員の派遣	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載							
	10104230	航空関係業務			無							
担当	組織コード	所属名										
	843800	消防局警防部航空隊										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—		その他	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 航空法、川崎市消防航空隊運航管理規程、川崎市消防航空隊運航管理規程に関する要綱											
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	 13.1	消防ヘリコプターを有効に活用するため計画的な点検整備を行うとともに、今後増加が予想される気候関連災害に対応した訓練を実施することにより、災害対応能力の向上を図ります。										
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名									
予決算 (単位: 千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		294,109	295,952	338,308	393,104	254,185		433,303		
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0		0	
			市債	0	—	0	0	0		0		0
			その他特財	71,161	—	105,161	70,756	90,161		86,161		
			一般財源	222,948	—	233,147	322,348	164,024		347,142		
人件費* B		174,798	174,798	0	0	0	0	0	0	0		
総コスト(A+B)		468,907	470,750	338,308	393,104	0	254,185	0	433,303	0		
人工(単位: 人)		20.75										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	消防ヘリコプターを有効に活用するため計画的な点検整備及び訓練を実施することで、災害対応能力の向上を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	消防ヘリコプターによる救助訓練、消火訓練及び消防署との連携訓練等を継続的に実施します。また、法令に定められた検査に適合するよう自隊による点検整備を徹底し、稼働機体を確保します。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①操縦訓練、救助訓練、消火訓練など各種航空・消防訓練の実施 ②消防防災ヘリコプターの自隊による定期点検及び委託業者による点検の実施並びに航空法の指導基準に適合した安全性及び環境保全のための耐空証明取得 ③新規に採用した操縦士・整備士の運航に必要な資格取得 ④「消防防災ヘリコプターの運航に関する基準」に対応した365日24時間運航体制の確立に向けた研究及び検討の実施	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①市内の各消防署及び県内消防本部と大規模災害、救助訓練等を実施しました。また、所属操縦士による緊急操作、屋上離着陸訓練を実施しました。 ②消防ヘリコプターの定期点検及び委託業者による点検並びに安全性及び環境保全のための技術基準に照らした耐空証明を取得しました。 ③令和4年4月に採用した操縦士1名は運航に必要な2機種分の資格を取得しました。また、同年同月に採用した整備士も1機種分の資格取得が必要でありましたが、年度内に資格を取得することができました。 ④基準に対応した365日24時間運航体制の確立に向けた検討等を所属内で2回実施し、現状の課題を抽出しました。							
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位	
1	活動指標	航空機特別応援に係る訓練や研修会等の実施	目標	5	5	5	5	回
	説明	神奈川県下消防相互応援協定に基づく航空機特別応援に係る訓練や研修会、その他各種災害想定訓練の総数	実績	11	—	—	—	
2	活動指標	消防ヘリコプターの定期的な時間点検の実施	目標	—	—	—	—	回
	説明	60時間毎に実施する点検の総数 (実績管理のための参考指標のため、目標値を設定していません。)	実績	8	—	—	—	
3	説明	目標	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	
4	説明	目標	—	—	—	—	—	
		実績	—	—	—	—	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		相次ぐ消防防災ヘリコプターの墜落事故を受け、令和元年9月24日付け消防庁告示第4号により、消防防災ヘリコプターの運航に関する基準が示されました。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 2 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R2年度:消防庁から発出された「消防防災ヘリコプターの運航に関する基準」に基づく運航体制の構築のため、令和2年度に、増員を伴う組織改正について、関係部局と調整を図り、令和3年4月1日から条例定数が8名増えました。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	今後起こり得る大規模災害に備えるため、事業に対する市民のニーズは高く、市町村消防の責任を果たしています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	耐空証明の取得及び各種訓練の実施により、機体の安定的な運航を維持するとともに継続的な訓練を実施していることから災害対応能力の向上について成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	ヘリコプターの定期点検において、技術的基準に基づき、民間委託の耐空検査と自隊点検の役割分担を明確にし、事業の効率化を図りました。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	機体の安定的な運航及び各種訓練並びに研修会等を実施することで、航空消防力を強化につながり、その結果、24時間365日体制を確立するための成果が上がっており、総合的な消防力の強化に一定程度の貢献をしています。

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	令和元年9月24日付け消防庁告示第4号をうけ、消防ヘリコプターの運航に係る検討プロジェクトチームを設定して航空隊関連事項について検討した結果に基づき、操縦士の資格取得及び必要な要員の配置を含め今後も運航管理体制の充実強化及び災害対応能力の向上に努めていきます。また、365日24時間体制の確立に向け、操縦士として必要な技術を抽出し、策定した教育訓練等基本計画に基づき効果的に訓練等を実施します。
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①操縦訓練、救助訓練、消火訓練など各種航空・消防訓練の実施 ②消防ヘリコプターの自隊による定期点検及び委託業者による点検の実施並びに航空法の指導基準に適合した安全性及び環境保全のための耐空証明取得 ③新規に採用した操縦士・整備士の運航に必要な資格取得 ④「消防防災ヘリコプターの運航に関する基準」に対応した365日24時間運航体制の確立に向けた研究及び検討の実施	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)	③新規に採用した操縦士の運航に必要な資格取得【変更 (令和5年度)】	
	変更の理由	③新規に採用した整備士の運航に必要な資格取得は、1機種分のみであり、令和5年3月中に取得できたこと及び令和5年度に整備士の採用は予定されていないため。	

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要												
事務事業	事務事業コード	事務事業名							政策体系別計画の記載			
	10104240	火災予防設備に関する業務							無			
担当	組織コード	所属名										
	843910	消防局予防部予防課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類			分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)				
	—	—	—			許認可等		—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度											
	(法令・要綱等)	消防法、建築基準法、川崎市火災予防条例等										
総合計画と連携する計画等												
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性		11	消防用設備等を適正に設置、維持することで建物の安全性を確保し、火災による人命、財産等の被害を低減させます。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目					課題名						
予決算 (単位: 千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		0	0	0	0			0		
		国庫支出金	0	—	0	0	0			0		
			市債	0	—	0	0	0			0	
			その他特財	0	—	0	0	0			0	
		一般財源	0	—	0	0	0			0		
	人件費* B		196,195	196,195	0	0	0	0	0	0	0	0
	総コスト(A+B)		196,195	196,195	0	0	0	0	0	0	0	0
	人工(単位:人)		23.29									

* 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)		
政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	対象建築物等を利用する市民、建築物・消防用設備等を建築・設置する関係者。	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	消防用設備等を適正に設置、維持することで建物の安全性を確保し、火災による人命、財産等の保護を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	火災予防の観点から建物の安全性を確保するために、法定の申請、届出等の機会を通じ、その位置、構造、設備等が消防法、建築基準法等で定める防火に関する規定に適合するか確認するとともに、設置する消防用設備等の種類や位置、種別等を審査し、検査を行います。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①防火に関する規定の改正及び関連規則等の整備 ②消防用設備等に関する事務や消防同意事務における適切な指導及び事務処理の実施 ③職員の知識・技術レベルを把握するための研修及び考査の実施 ④消防同意の電子化に向けた検討	

実施結果 (Do)										
上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)		目標どおり達成できました。 ①消防法施行規則の一部を改正する省令を踏まえて、川崎市火災予防規則に規定する消防用設備等工事計画届に添付する書類の削減をするため、川崎市火災予防規則の一部を改正しました。 ②消防用設備等に関する事務全般について適正に執行したほか、消防同意事務については、事前の指導を綿密に行い、全て法令に規定された期限内に審査し、消防用設備等の通知を適正に処理しました。 ③消防同意事務に係る研修はeラーニングにより1回9人に実施しました。また、消防用設備等に係る研修は消防用設備等専門研修を1回10人に実施し、消防用設備等専門研修の研修効果確認をeラーニングにより1回60人に実施しました。 ④消防同意事務の電子化について、指定確認検査機関と1回、まちづくり局建築審査課及び建築指導課と2回の計3回検討を行いました。また、同意の証明方法や書類の送受方法等について課題があることから、次年度も引き続き検討を行います。								
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)				目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	活動指標	マニュアルの改正			目標	2	2	2	2	件
		説明 消防用設備等設置指導マニュアルを最新法令、運用に改正する作業数			実績	2	—	—	—	
2	活動指標	研修の実施			目標	2	2	2	2	回
		説明 職員の知識・技術の向上を目的とした研修の回数			実績	3	—	—	—	
3					目標					
		説明			実績	—	—	—	—	
4					目標					
		説明			実績	—	—	—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>		多くの死傷者を伴う火災など社会的影響のある災害が発生した場合、その対処策として消防用設備等の技術基準が改正されます。また、性能規定による新技術を用いた特殊な消防用設備等が活用され、高度で多様な知識、経験等が求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 1 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R1年度:消防法令の改正により所管条例を改正しました。職員向けの最新のマニュアルを共有し、各課・署の担当が常に最新情報により指導できるようにしました。 H30年度:マニュアルの改正に係る会議や研修の手法を、書面やeラーニングを利用する等工夫し、出張の回数を減らすとともに受講機会の拡充を図りました。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	多くの死傷者を伴う火災など社会的影響のある災害が発生する都度、消防用設備等の技術基準が改正されることから、各基準の改正の頻度は高く、その都度、マニュアルの改正や研修による周知の必要があります。また、民間では専門的知見や経験に鑑みた指導が行えないため、行政が主体となり実施していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	eラーニング等を利用した研修により受講の機会を向上させ、また、受講者のレベルに応じた研修内容により指導し、効果の確認をすることにより知識・技術の到達レベルを把握できていることから、成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	消防法令で規定する技術基準等は、社会情勢を踏まえ頻りに改正されることから、行政において専門的知見や経験に鑑みたマニュアル等の改訂や研修を実施する必要があります。また、指導・事務処理能力の底上げを図り、適切な指導及び事務処理が行えるよう、マニュアル等の改訂、研修を順次実施します。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	マニュアルの改訂に係る会議や研修は、書面会議やeラーニング、オンラインを利用する等工夫し、回数や受講の機会を向上させました。また、研修は受講者の経験年数、業務レベルに応じて必要となる知識・技術を教示し、受講者が自身の到達レベルを把握するとともに不足部分を補強したところ、事務処理能力の向上が確認できたことから、一定程度の施策への貢献はありました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	今後も、消防法令で規定する技術基準等の改正が予定されることから、指導・事務処理能力の底上げを継続し、適切な指導及び事務処理が行えるよう、引き続き、マニュアル等を改正し、業務レベルに応じた研修を実施します。
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容			①防火に関する規定の改正及び関連規則等の整備 ②消防用設備等に関する事務や消防同意事務における適切な指導及び事務処理の実施 ③職員の知識・技術レベルを把握するための研修及び考査の実施 ④消防同意の電子化に向けた検討
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 <small>(上記計画上の記載に対する変更箇所)</small>		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要																								
事務事業	事務事業コード		事務事業名						政策体系別計画の記載															
	10104245		地域防災支援事業						有															
担当	組織コード		所属名																					
	841100		消防局総務部庶務課																					
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類			分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)																
	—	—	—			その他		—																
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他																							
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 災害対策基本法、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律、消防庁通知等																							
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画																							
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	13  13.1 幅広い世代に対して防災教育等を実施することで、地域防災力の担い手の育成を支援し、今後想定される首都直下地震や異常気象による風水害への備えの強化につなげます。																							
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目					課題名																		
予決算 (単位: 千円)	年度	R4年度				R5年度				R6年度				R7年度										
		予算額		決算額(見込)		計画事業費		予算額		決算額		計画事業費		予算額		決算額		計画事業費		予算額		決算額		
	財源内訳	事業費 A		8,178		7,975		8,178		11,194		8,178				8,178								
		国庫支出金	0		-		0		0		0				0									
			市債		0		-		0		0		0				0							
			その他特財		2,726		-		2,726		2,833		2,726				2,726							
		一般財源		5,452		-		5,452		8,361		5,452				5,452								
	人件費* B		50,123		50,123		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
	総コスト(A+B)		58,301		58,098		8,178		11,194		0		8,178		0		0		8,178		0		0	
	人工(単位:人)				5.95																			

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)		
政策体系	政策	災害から生命を守る
	施策	消防力の総合的な強化
	直接目標	消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、市内の園児、小学生、中学生及び高校生、企業	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	防災訓練等を通じて、防火防災を担う人材の育成を支援することで地域防災力の向上を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	幅広い世代を対象とした防火防災教育を継続的に実施することで、自助・共助の取組と地域の防火防災を担う人材の育成の支援を図ります。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①町内会等への訓練指導の推進 ②地域防災力向上に向けた将来の担い手育成の推進 ・学校教育として「みんなが消防士」「地域防災スクール」「幼年消防クラブ」の実施 ・地域教育として「少年消防クラブ」の実施 ③地震体験車の効率的な運用の推進 ④消防団員と連携した訓練指導や教育の充実	

実施結果 (Do)											
上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)		目標どおり達成しました。 ①自主防災組織等への訓練指導を100回実施しました。 ②学校教育として、みんなが消防士事業 113回、地域防災スクール 21回、幼年消防クラブ 11回 実施しました。 地域教育として、少年消防クラブ 45回を実施しました。 ③各消防署及び業務委託先と連携し、町会や企業等の消防訓練に157回派遣しました。 ④消防団員と連携した取組として、みんなが消防士事業22回、地域防災スクール活動9回、少年消防クラブ活動8回に消防団員が参画し直接指導を実施しました。									
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)				目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位	
1	活動指標	教育機関と連携した事業の実施回数				目標	182	182	182	182	回
		説明	教育機関と連携した各種事業(みんなが消防士、地域防災スクール、幼年・少年消防クラブ)の活動回数			実績	190	—	—	—	
2	活動指標	消防団員と連携した訓練指導等の実施回数				目標	—	—	—	—	回
		説明	地域防災に係る訓練等(みんなが消防士、地域防災スクール、自主防災組織訓練指導、幼年・少年消防クラブ)に消防団員が参加した回数(実績管理のための参考指標とし、目標値は設定していません。)			実績	94	—	—	—	
3						目標					
		説明				実績	—	—	—	—	
4						目標					
		説明				実績	—	—	—	—	


評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		地域防災は、市民の生命、身体及び財産を災害から保護するための行政上の重要施策であり、「災害対策基本法」や「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」及び「消防庁長官通知」等に基づき、地域に密着して「共助」の役割を担う消防団や自主防災組織の活動と教育機関における防災教育を関連づけ、若年層を中心とした幅広い世代に地域の防火防災についての防災教育を推進し、消防団を中核とした地域防災力の向上に取組ます。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 4 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		教育機関と連携した防災教育の実施(みんなが消防士事業の教育メニューに消防団科目を新設)	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	「災害対策基本法」、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」及び「消防長官通知(児童生徒等に対する防災教育の実施)」等に基づき、地域防災力向上に向けた取組を推進していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	各種事業の実施件数も増加傾向にあることから、成果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	・地震体験車の運用については、既に委託により実施しています。 ・地域防災力の向上に向けた各種取組のうち、防災教育及び訓練指導については、消防職・団員が直接指導を行い成果をあげるもので、コスト削減の余地はないと考えられます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	各種事業の数値は新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あるものの、上昇傾向にあります。今後も継続的に事業を推進し、若年層を中心とした幅広い世代に対する防災教育を実施することで地域防災力向上の一助になるものと認識しており、施策へ貢献しているものと考えています。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①町内会等への訓練指導の推進 ②地域防災力向上に向けた将来の担い手育成の推進 学校教育として「みんなが消防士」「地域防災スクール」「幼年消防クラブ」の実施 地域教育として「少年消防クラブ」の実施 ③地震体験車の効率的な運用の推進 ④消防団員と連携した訓練指導や教育の充実
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)	
	変更の理由	

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要													
事務事業	事務事業コード		事務事業名						政策体系別計画の記載				
	10601060		救急活動事業						有				
担当	組織コード		所属名										
	843300		消防局警防部救急課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類			分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)					
	—	—	その他			—		—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱												
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画, 自殺対策総合推進計画, かわさき保健医療プラン												
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	 13.1 効果的な救急車の適正利用の推進や市民の応急手当に関する知識及び技術の習得などにより、救命効果の向上を図ります。												
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目					課題名							
	取組1(1) 将来を見据えた市民サービスの再構築					24・救急隊の現場到着時間の維持・短縮及び救急車の適正利用							
予決算 (単位: 千円)	年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
			予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	事業費 A		51,823	187,321	51,823	58,441	51,823		51,823				
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	0		0		0		
		市債	0	—	0	0	0		0		0		
		その他特財	16,845	—	16,845	16,695	16,845		16,845		16,845		
		一般財源	34,978	—	34,978	41,746	34,978		34,978		34,978		
	人件費* B		2,741,170	2,741,170	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総コスト(A+B)		2,792,993	2,928,491	51,823	58,441	0	51,823	0	0	51,823	0	0
	人工(単位: 人)		325.4										

* 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)		
政策体系	政策	市民の健康を守る
	施策	医療供給体制の充実・強化
直接目標	いつでも安心して適切な医療が受けられる環境を整える	
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	救急車の適正利用や市民の応急手当に関する知識及び技術の習得などにより、救命効果の向上を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	傷病者の緊急性や医療機関受診の必要性等について市民自らの判断を助けるツールとして、市のホームページに公開している救急受診ガイドを継続するとともに、リーフレット等により広く市民に対し広報を行います。 市民救命士の養成については、広く市民に対し救命講習の機会を提供するため、民間への全部委託を継続します。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①救急受診ガイド等を活用した救急車の適正利用の推進による救急需要対策の実施 ②消防機関の救急車に代わる転院搬送手段の調査検討 ③民間への全部委託による市民救命士の養成の実施(養成数: 10,000人以上)	

実施結果 (Do)										
上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度		4	1. 目標を大きく上回って達成		4. 目標を下回った					
			2. 目標を上回って達成		5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)		目標を下回りました。 ①救急受診ガイド等の活用については、各種チラシの配布や市内の大型ビジョンでの上映、さらには株式会社川崎フロンターレ、株式会社コールドクターと官民連携で広報を行い、救急車の適正利用の推進を実施しました。 ②転院搬送において救急車を保有している一部医療機関を活用するための調査検討を実施しました。 ③市民救命士の養成については、新型コロナウイルス感染症により、受講者の人数を制限する等必要な感染対策を講じて開催したため目標値に達しませんでした。令和4年度から希望する事業所等に対して座学部分をWEBで実施する応急手当WEB講習を開始し、受講者数は前年比で552人増加しました。また、救命講習PR動画を市内の大型ビジョンや各種イベント等において上映するなど広報活動を実施しました。委託先事業者である(公財)川崎市消防防災指導公社と協力し、各種団体が参画する会議やイベントに出向き、直接案内を行いました。今後も感染対策を講じながら、応急手当WEB講習の更なる周知を含めた啓発活動を継続していきます。								
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)			目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位	
1	成果指標	市民救命士の養成数			目標	10,000以上	10,000以上	10,000以上	10,000以上	人
		説明	応急手当の知識・技術を習得した市民救命士の数		実績	4,291	—	—	—	
2					目標					
		説明			実績	—	—	—	—	
3					目標					
		説明			実績	—	—	—	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	全部委託した救命講習について、今後も高齢化の進展に伴う人口構造の変化や在宅介護の増加等により、市民等の救命講習の需要が高まることが考えられることから、より多くの市民が受講できる体制を引き続き維持していく必要があります。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H29年度: 民間への全部委託を開始 H28年度: 民間への委託割合を3割から7割へ拡大 H27年度: 民間への一部委託を開始 H26年度: 民間への委託化に向けての協議を実施し、平成29年度に全部委託をすることが決定		
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の対策として受講人数を制限しているものの、一般公募及び団体からの依頼による救命講習において、受講定員の上限に近いニーズがあったことや一部の救命講習においては受講定員を超える応募があったことなどから、引き続き、市民ニーズに対応する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	c
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響による心理的要因が影響したものと考えています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	講習内容や講習時期、会場等について、引き続き、精査を行っていきます。また、令和4年度から感染症対策の一環として、一部の市民救命士講習に導入している座学と実技を分割したWEB講習について受講者や指導者の視点から多角的に検証することで、効率的に質の向上に取り組んでいきます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	救命講習は、感染リスクに対応した応急手当を学ぶことができる数少ない講習であり、これを含めた市民の応急手当に関する知識及び技術の習得などにつながっているため、一定程度施策への貢献はありました。



改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	新型コロナウイルス感染症への感染リスクによる受講控えという不安要素がある中、令和4年度から講習時間を短縮し、人との接触時間を短くする応急手当WEB講習を開始しましたが、目標値に達しませんでした。しかしながら、受講者数は前年比で552人増加し、一定の需要はあることから、市民ニーズに応えながら、受講者が安全・安心に救命講習を受講できるよう、引き続き講習の提供体制を維持していきます。
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①救急受診ガイド等を活用した救急車の適正利用の推進による救急需要対策の実施 ②消防機関の救急車に代わる転院搬送手段の調査検討 ③民間への全部委託による市民救命士の養成の実施(養成数:10,000人以上)	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要												
事務事業	事務事業コード	事務事業名							政策体系別計画の記載			
	10601070	救急隊整備事業							有			
担当	組織コード	所属名										
	843300	消防局警防部救急課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)			分類2(内部事務)					
	—	—		その他			—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 消防法、消防組織法、消防力の整備指針											
総合計画と連携する計画等	自殺対策総合推進計画、かわさき保健医療プラン											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性		13.1	災害等により発生した傷病者を適切に搬送するため、必要な救急体制を維持します。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目					課題名						
	取組1(1) 将来を見据えた市民サービスの再構築					24・救急隊の現場到着時間の維持・短縮及び救急車の適正利用						
予決算 (単位: 千円)	年度	R4年度			R5年度			R6年度			R7年度	
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	0	0	0	0	0			0		
		国庫支出金	0	—	0	0	0	0		0		
		市債	0	—	0	0	0	0		0		
		その他特財	0	—	0	0	0	0		0		
		一般財源	0	—	0	0	0	0		0		
	人件費* B	40,772	40,772	0	0	0	0	0	0	0	0	
総コスト(A+B)	40,772	40,772	0	0	0	0	0	0	0	0		
人工(単位: 人)	4.84											

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)		
政策体系	政策	市民の健康を守る
	施策	医療供給体制の充実・強化
	直接目標	いつでも安心して適切な医療が受けられる環境を整える
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	救急隊	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	救急隊を適正に配置することで、救急車の現場到着時間の維持・短縮による救命効果の向上を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	救急需要及び人口動態を踏まえた効率的・効果的な救急体制の整備に向けた取組を推進します。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①救急需要の動向に応じた効率的・効果的な救急隊の配置に向けた取組 ・北部地域増隊(王禅寺・宿河原)の効果検証を踏まえた効率的・効果的な救急隊の配置等に向けた調査・検討	

実施結果 (Do)											
上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度		4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った								
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)		目標を下回りました。 ①新型コロナウイルス感染症の感染防止対策や、一時的な救急需要の集中、季節的要因による救急需要の増加等の影響等により救急車の現場到着時間が延伸しました。 AI(人工知能)により一時的・局地的な救急需要の集中を予測し、救急隊を効果的・効率的に配置する取り組みについて、事業者4社と協定を交わし実証実験を実施した結果、救急需要を予測できる可能性が示されたことから、AIを活用した救急需要予測及び最適配置シミュレーションの機能を有するシステムの製作について、企画提案方式により業者を決定後委託し、令和4年度末に完成しました。今後は、実用化に向けて救急需要予測及び最適配置シミュレーションの精度検証を行います。 その他、救急需要対策として、各種ビジョン、各種広報掲示板をはじめとしたさまざまな媒体の活用と手法による広報を実施し、適正利用に向けた取り組みの啓発を行いました。									
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)					目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	活動指標	救急件数	目標				-	-	-	-	件
		説明 年間の救急出場件数 (実績管理のための参考指標のため、目標値を設定していません。)	実績				84,776	-	-	-	
2	成果指標	救急車の現場到着時間	目標				8.8	8.6	8.4	8	分
		説明 119番通報の覚知から、救急隊が現場到着するまでの時間	実績				10.2	-	-	-	
3			目標								
		説明	実績				-	-	-	-	
4			目標								
		説明	実績				-	-	-	-	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>		新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和2では前年比で救急件数は12年ぶりに減少したものの、令和3年は再び増加に転じ、令和4年は過去最高の救急件数を記録し、救急体制を検討することの必要性が生じました。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>		H29年度: 救急隊の出場状況や救急件数の抑制に係る救急需要対策等、多角的に分析し、救急隊増隊について関係部局と継続して協議を行い令和2年度に1隊の増隊が認められました。 H28年度: 救急隊の出場状況や救急件数の抑制に係る救急需要対策等、多角的に分析し、救急隊増隊について関係部局と継続して協議を行いました。 H27年度: 救急隊の出場状況や救急件数の抑制に係る救急需要対策等、多角的に分析し、救急隊増隊について関係部局と協議を行い、平成30年度に1隊の増隊が認められました。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	令和3年と比較し救急要請件数、搬送人員ともに増加していることから、ニーズは薄れていないと考えます。また、救急隊の業務については、消防法に基づく業務であり、民間活用の余地はありません。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	c
	評価の理由	救急車の現場到着時間は、令和3年中の9.6分から令和4年中は10.2分と0.6分延びました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う感染防止装備の確実な装着と、一時的な救急需要集中等により現場到着時間が延びたものと考えます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	AIによる救急需要集中の予測及び最適配置シミュレーションを活用した現場到着時間の短縮に取り組みます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	C	新型コロナウイルス感染症患者の救急要請、搬送困難事案の増加のほか、季節的要因による救急需要の増加等により、救急車の現場到着時間は昨年の9.6分から10.2分に延びたことから、貢献の度合いは低いと考えます。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①救急需要の動向に応じた効果的・効率的な救急隊の配置に向けた取り組み ・北部地域増隊(王禅寺・宿河原)の効果検証を踏まえた効率的・効果的な救急隊の配置に向けた調査・検討
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 <small>(上記計画上の記載に対する変更箇所)</small>	
	変更の理由	

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載							
	10601080	救急救命士養成事業			有							
担当	組織コード	所属名										
	843300	消防局警防部救急課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—	—	その他	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 救急救命士法											
総合計画と連携する計画等	かわさき保健医療プラン											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	 13.1	救急救命士の常時乗車体制を確保するとともに、より高度な救命処置ができる認定救急救命士を養成することにより、様々な災害で発生する傷病者に対応できる救護体制を確保します。										
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		55,411	53,578	55,411	54,034	55,411		55,411		
		国庫支出金	0	—	0	0	0		0		0	
			市債	0	—	0	0	0		0		0
			その他特財	0	—	0	0	0		0		0
			一般財源	55,411	—	55,411	54,034	55,411		55,411		55,411
	人件費* B		8,256	8,256	0	0	0	0	0	0	0	0
	総コスト(A+B)		63,667	61,834	55,411	54,034	0	55,411	0	0	55,411	0
	人工(単位:人)		0.98									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	市民の健康を守る
	施策	医療供給体制の充実・強化
	直接目標	いつでも安心して適切な医療が受けられる環境を整える
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	消防職員	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	救急救命士の常時乗車体制を確保するとともに、より高度な救命処置ができる認定救急救命士を養成することにより、救命効果の向上を図ることを目的とします。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	新規に救急救命士の資格習得に向け、養成施設に派遣させるとともに、高度な救命処置のできる認定救急救命士の養成を行います。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①救急救命士の常時乗車体制の運用に向けた新規救急救命士の養成(養成数:年7人以上) ②高度な救命処置が行える認定救急救命士の養成(養成数:年8人以上) ③川崎市立川崎病院救急ワークステーション実現に向けた運用方法の検討・調整	

実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」により具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)		目標どおり達成できました。 ①救急救命士の常時乗車体制の運用に向けた新規救急救命士の養成について、目標人数の7人を養成しました。(養成数:7人・目標値7人) ②高度な救命処置が行える認定救急救命士の養成について、目標人数の8人を養成しました。(養成数:8人、目標値8人) ③川崎市立川崎病院ワークステーション実現に向けて、関係局及び関係課と運用方法等の検討・調整を行いました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位	
1	活動指標	常時乗車体制の運用に向けた新規救急救命士の養成数	目標	7	7	7	7	人
	説明	常時乗車体制の確保に向けて、新たに養成した救急救命士の人数(救急隊員に業務している者の中から、救急救命士法にある一定期間の業務経験のある職員を養成施設にて養成します。)	実績	7	—	—	—	
2	活動指標	認定救急救命士の養成数	目標	8	8	8	8	人
	説明	新たに養成した認定救急救命士の人数(救急救命士の有資格者の中から、高度な処置が行える認定を取得するため、医療機関等において養成します。)	実績	8	—	—	—	
3	説明		目標					
			実績	—	—	—	—	
4	説明		目標					
			実績	—	—	—	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和2年は全国的に救急件数が減少しましたが、令和3年に増加したことから、今後も救急需要の動向を注視していく必要があります。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		H27年度：退職者等の状況を鑑みた、常時乗車体制の早期実現に向けた迅速化について検討し、関係機関と調整等を行いました。 (新規救急救命士の養成数 平成28年度以降年間5人→7人)	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	救急件数は大幅に増加し、高齢者の占める割合も増加していることから、救急現場において救急救命処置を必要とするニーズは薄れていないと言え、救急救命士は必要不可欠です。今後も継続的に救急救命士及び認定救急救命士の養成を実施していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	平成28年度から、これまで年間5人の新規救急救命士の養成を年間7人に増員したため、救急救命士の常時乗車体制の確保に向けてその効果は上がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	近郊の新規救急救命士養成施設の年間養成数には定員があり、他都市の養成人数の関係から増員は困難です。また本市単独で養成所を保有することは費用対効果の観点からも妥当ではありません。認定救命士の養成についても、教育する医師の数や施設の対応人数等の観点からこれ以上の事業拡大は困難です。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	救急救命士の常時乗車体制の確保に向けてその効果は上がっており、医療供給体制の充実・強化に貢献しています。

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	本市で養成所を保有することは費用対効果の観点からも妥当ではありません。また、過去に長期的な予算の平準化の観点から計画的な養成数を算定しました。認定救命士の養成についても、研修職員のワクチン接種を条件として研修先の確保に向け取り組みましたが、教育する医師の数や施設の対応人数等の制限からこれ以上の事業拡大は困難であり、総合的に判断して現状の養成数のまま事業を継続します。
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①救急救命士の常時乗車体制の運用に向けた新規救急救命士の養成(養成数:年7人以上) ②高度な救命処置が行える認定救急救命士の養成(養成数:年8人以上) ③川崎市立川崎病院ワークステーション実現に向けた運用方法の検討・調整	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

事務事業評価シートの見方

「事務事業評価シート」は、事務事業評価のツールとして、572 の事務事業ごとに、事業の実施結果の達成度を把握するとともに、施策全体の推進に寄与しているか等を確認し、効率的・効果的なPDCAサイクルの実現につなげるため、事務事業所管課が作成し、取りまとめたものです。

事務事業評価シートの見方は次のとおりです。

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要												
事務事業	事務事業コード	事務事業名									政務課別計画の記載	
	50101080	SDGs未来都市推進事業									有	
担当	組織コード	所属名										
	170910	総務企画局都市政策部企画調整課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類			分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)				
	-	-	その他			-		-				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度											
(法令・要綱等)	川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsパートナー」実施要綱、川崎市SDGsプラットフォーム設置要綱、SDGs達成に向けたモデル事業創出支援補助金交付要綱											
総合計画と連携する計画等	地球温暖化対策推進基本計画、男女平等推進行動計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	16	17.17	川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsパートナー」と「川崎市SDGsプラットフォーム」の効果的な運用により、多様なステークホルダーとの連携強化を図り、SDGsの達成に向けた取組を支援します。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目					課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	14,917	13,076	8,053	11,155	8,053		8,053			
		- 在庫支出金	0	-	0	0	0		0			
		- 市債	0	-	0	0	0		0			
		- その他特財	0	-	0	0	0		0			
		- 一般財源	14,917	-	8,053	11,155	8,053		8,053			
	人件費* B	21,987	21,987	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総コスト(A+B)	36,904	35,063	8,053	11,155	8,053	0	8,053	0	8,053	0	
	人工(単位:人)	2.61										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)		
政策体系	政策	参加と協働により市民自治を推進する
	施策	市民参加の促進と多様な主体との協働・連携のしくみづくり
	直接目標	多様な主体が協働・連携して地域課題の解決を進める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	川崎市内で事業活動をしている企業や川崎市内で活動をしている組織等の多様なステークホルダー	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsパートナー」と「川崎市SDGsプラットフォーム」の効果的な運用により、SDGsの達成に向けた取組の支援を行うことで、市域におけるSDGsの推進を目指します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	国の取組との連動、川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsパートナー」や「川崎市SDGsプラットフォーム」を基盤とした多様な主体との連携強化、職員や市民、企業団体等への理解の浸透を図り、SDGsの推進に効果的に取り組みます。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①川崎市SDGs登録・認証制度の申請様式の改善など手続の利便性向上に向けた検討と取組の推進 ②情報提供やセミナー開催などによるSDGsに取り組む事業者の支援 ③事業者のネットワーク化の支援に向けた取組事例の共有やマッチング支援などの実施 ④ポータルサイトや分科会の立ち上げなど事業者間連携の促進	

実施結果 (Do)	
上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等より具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標通り達成できました。 ①川崎市SDGs登録・認証制度について、かわさきSDGsポータルサイトを開設しサイト上で申請手続を行うよう変更し、申請者への自動応答メッセージの送付や申請書への誤記入防止を図り、申請者の利便性の向上を図りました。 ②かわさきSDGsパートナー向けに随時情報発信を行うとともに、SDGsフォーラム・セミナーを5回開催しました。 ③SDGs大賞を初開催するとともに、事業者のマッチングを促進するSDGs達成に向けたモデル事業創出支援補助金を試行実施し、2件交付しました。 ④令和5年1月にかわさきSDGsポータルサイトを立ち上げるとともに、分科会が6つ立ち上がりました。

①総合計画と連携する分野別計画等を記載

②SDGsの達成に向けた取組を一体的に推進できるよう、SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性(その取組をゴール・ターゲットの達成にどのようにつなげるか)を記載

③行財政改革の取組との関係を意識できるよう、行財政改革プログラムに関する改革項目等を記載

④事業に係る職員の人件費や事業費(会計年度職員の人件費を含む)等を記載

⑤事業の目的などを意識できるよう、事業の対象、目的、内容等を記載

⑥第3期実施計画に記載している当該年度の取組内容・目標を記載

⑦上記⑥に記載した取組・目標の達成度など達成状況を記載。取組内容や目標が未達成の場合は、未達成となった理由や代替の取組等を記載

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標（指標の説明）	目標	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1 成果指標	「かわさきSDGsパートナー」登録・認証事業者数	2,437	3,139	3,630	3,973	者	
	説明 「かわさきSDGsパートナー」に登録・認証された事業者等の累計件数	実績 3,145	—	—	—		
2 成果指標	SDGsにつながる行動に取り組んでいる人の割合	50	—	—	—	%	
	説明 市民アンケートにおいてSDGsにつながる行動に取り組んでいると回答した人の割合 ※アンケートは毎年実施	目標 —	34	—	—		
3 成果指標	SDGsを知っている人の割合	80	—	—	90	%	
	説明 市民アンケートにおいてSDGsを知っていると回答した人の割合 ※アンケートは毎年実施	目標 —	—	—	—		
4	説明	目標					
		実績					

⑧上記⑥に記載した取組に係る指標を設定し、活動実績や取組によって得られた事業成果を記載

『有効性』と関連

事業を取り巻く社会環境の変化（国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など）	内閣府では、持続可能なまちづくりや適化、地域課題解決の加速化という格	『必要性』と関連	SDGsの理念を取り込むことで、政策の全体最	力とした地方創生（地方創生SDGs）を推進してい
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施（直近） R 4 年度 <input type="checkbox"/> 未実施			
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R4年度：SDGs大賞の開催、SDGs達	『効率性』と関連	の試行実施、かわさきSDGsポータルサイトの開	

⑨事業を取り巻く社会環境の変化を記載

⑩直近5年程度の事業見直し・改善内容を記載

評価項目	評価
【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている a
【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある a
評価の理由	川崎市内で事業活動をしている企業や川崎市内で活動をしている組織など、多様なステークホルダーに対してSDGsの達成に向けた取組の支援を行うことの重要性は増しており、市が主体となって取組の支援を実施することにより市域におけるSDGsの推進を図ることが求められています。
【成果】 活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は期調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない b
評価の理由	各種セミナーやSDGs大賞の開催、補助金制度の試行実施、ポータルサイトの運営などの実施により、かわさきSDGs/パートナー等のSDGs達成に向けた取組の支援につなげることができています。
【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み c
【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある b
【質の向上】 事業を適正な（過小でも、過大でもない）規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部（職員・組織）の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み c
評価の理由	令和4年度にポータルサイトの活用による川崎市SDGs登録・認証制度事務の効率化を実現しましたが、委託仕様の見直しなどによる事務改善の可能性がります。また、事業を適正な人員体制・費用で行いながら市民サービスの向上を図るため組織体制の見直しを実施しました。

⑪上記⑧⑨⑩の内容を踏まえ、必要性、有効性、効率性に係る評価結果を記載

貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い A	川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGs/パートナー」や「川崎市SDGsプラットフォーム」の効果的な運用により、市内の多様なステークホルダーに対し、SDGsの達成に向けた取組の支援を行ったことにより、市域におけるSDGsの推進が図られたことから、施策への貢献がありました。

⑫事業の評価結果等を踏まえ、上位の施策への貢献度を記載

方向性区分	実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了 II	今後も、市内の多様なステークホルダーのSDGsの達成に向けた取組を支援するため、川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGs/パートナー」や「川崎市SDGsプラットフォーム」の効果的な運用を図りつつ、さらなる支援の拡充について検討していきます。
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容	①川崎市SDGs登録・認証制度の申請様式の改善など手続の利便性向上に向けた検討と取組の推進 ②情報提供やセミナー開催などによるSDGsに取り組む事業者の支援 ③事業者のネットワーク化の支援に向けた取組事例の共有やマッチング支援などの実施 ④ポータルサイトや分科会の立ち上げなど事業者間連携の促進
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所（上記計画上の記載に対する変更箇所）
	変更の理由

⑬実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性を記載

⑭第3期実施計画に記載している次年度の取組内容・目標を記載し、上記⑬を踏まえ、次年度の取組に変更がある場合は、変更箇所と変更理由を記載